

『小金井市の街づくりへの提言』
～住んでよし、訪れてよしの街づくり～



平成 23 年 3 月 31 日
(社) 中小企業診断協会
東京支部 三多摩支会登録
地域研究会

目 次 (案)

はじめに	1
第1章 小金井市の特徴	2
1. 小金井市の基本データ・イベント	2
2. 小金井の街を歩いて	6
第2章 小金井市のSWOT分析	15
1. 小金井市のSWOT分析	15
2. 小金井市への提言の目標	16
3. クロス分析「10年後に6,000人の人口増を目指す」	17
第3章 ワークライフバランスと街づくり、都市観光と街づくり	19
1. ワークライフバランスとまちづくり：生きがい・余暇の充実	19
2. 都市観光とまちづくり：街の魅力・活気の創出	20
3. 暮らしやすさ(利便性)の確保	21
第4章 小金井市の街づくりへの提言	22
1. 提言の全体構成	22
2. 提言一覧	24
I. 『生きがい・余暇の充実』への提言	24
II. 『街の魅力・活気の創出』への提言	30
III. 『暮らしやすさ(利便性)の確保』への提言	36
付属資料	44
・「現在の人口を10年間で6千人増やす住環境の検討」	44
・小金井市の第3次基本構想と産業活性化プラン	50
おわりに	56
会員名簿	57

はじめに

2009年の5月の連休の最終日、私たち地域研究会のメンバーは、まだ工事中のJR武蔵小金井駅に集合しました。この年の1月「小金井市の街づくりについて取り組もう」と決めた後、小金井市に関する各種データやJR中央線の高架工事の状況などに関する調査・意見交換などを行い、多少、小金井市への認識が共有化出来た中での現地踏査で、その第1回目の調査がこの日だったのです。

私達の研究会は、1994年に発足後、地域に関する報告書、地域への提言書作成等に取り組んできました。最近のものから列記してみますと以下の通りです。

「街の和菓子屋さん ～また行ってみたいくなる和菓子屋さん～」2008年10月

<http://albs.biz/chiiki/wagasi.pdf>

「安らぎの街 武蔵境駅北口ー安心・安全な街づくりへの提言ー」2006年3月

<http://albs.biz/chiiki/yasuragi.pdf>

「国分寺の都市農業 ー農・住近接の街づくりへの提言ー」2004年3月

<http://albs.biz/chiiki/tsnogyo.pdf>

「立川柴崎の地域づくりへの提言 ーカルチャーロード柴崎ー」2002年7月

<http://albs.biz/chiiki/sibazaki.pdf>

「多摩の環境づくり提言集 ー市民として いまできることー」2001年4月

「多摩都市モノレール ー多摩の未来とともにー」2000年1月

このような活動を行ってきたうえでの今回の小金井への街づくりへの提言です。現地調査の第1回目がJR小金井駅北側地域、2回目がJR小金井駅南側地域、そして3回目が京王線新小金井駅～JR東小金井駅～駅北側地域で、計3回の現地調査を通して今回の提言書の報告となります。

今回は、「小金井市の人口を10年間で6,000人の増加を目指す」という目標を掲げ、そのためのテーマを「住んでよし、訪れてよし、の街づくり」としました。2年に及ぶ取り組みとなってしまいましたが、取り組みの途中から参加することとなった新入会員の方にもその専門性を生かしたテーマで参画していただくなど、これまで同様に、会員、皆の参加によるものが出来たと自負しております。

地域研究会
会員一同

第1章 小金井市の特徴

1. 基本データ・イベント

1) 位置・地勢

小金井市は、東京都のほぼ中央、武蔵野台地の南西部にあり、都心から約25km西方に位置しています。

市の東は武蔵野市、三鷹市、西は国分寺市、南は調布市、府中市、北は小平市、西東京市に接しており、市の中央部には中央線が東西に、東南部には西武多摩川線が南北に通る、中央部には小金井街道が南北に、北部には五日市街道が東西に通っています。

- ・面積 面積 11.33平方キロ
(東西4.1km、南北4.0km)
- ・位置 東経139度30分、北緯35度41分
- ・標高 40m(東町) 75m(貫井北町)



北に桜の名所として知られる小金井公園、南に武蔵野公園、野川公園、多磨霊園があり、緑豊かな街です。また、小金井市の南部を東西に国分寺崖線が走っています。地元では古くから「はげ」と呼ばれており、各所に湧水が見られます。

東京都心とはJR中央線で結ばれ、武蔵小金井駅から新宿駅へ約20分、東京駅へ約35分の時間距離にあります。

2) 地名の由来

地名の由来について複数の説があります。一つは市の「はげ」南側を金井原と呼んでいたものを「こがねいはら」と読んだというもの。もう一つは「はげ」に沿って黄金(こがね)に値する豊富な湧水があるのを「黄金の井」や「こがね井」と称したというものです。

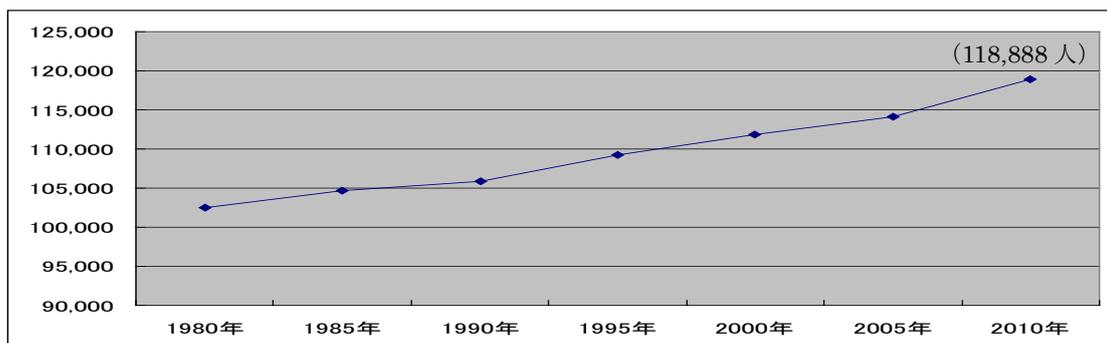
3) 人口

- ・人口：115,625人(うち男性：57,666人、女性：57,959人)

(平成23年2月1日現在 小金井市HPより)

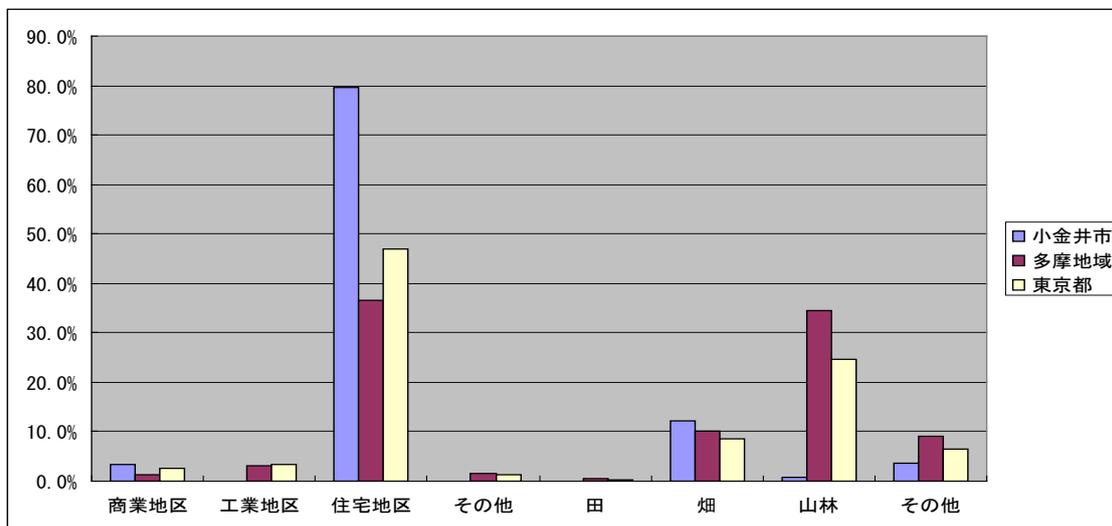
以下に、2010年に行われた国勢調査の結果を含めた人口の推移を示します。

小金井市の人口の推移 (e-Stat 国勢調査より)



4) 地目別土地面積

地目別土地面積の比較

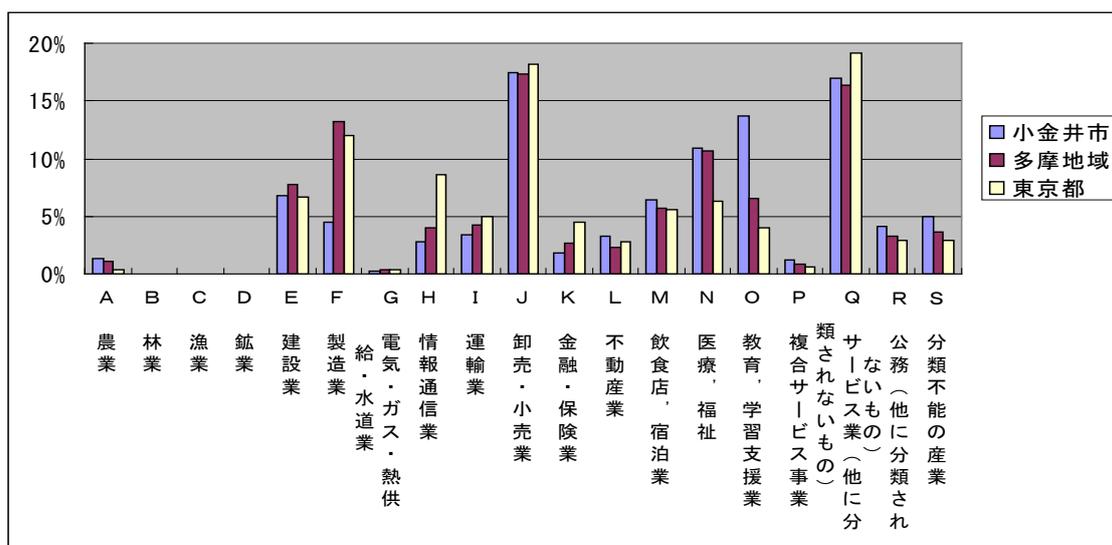


多摩地域データブック(多摩地域主要統計表)ー平成 21 年版ー (2010.3)

- ・ 小金井市は、住宅地区が突出して構成比が高い。
- ・ 小金井市は、商業地区の構成比が高く、工業地区の構成比が低い。
- ・ 小金井市の山林の構成比が低いですが、多くの市と比べて特に低い訳ではない。
(山林の面積が突出して大きいのは、八王子市、青梅市、桧原村、奥多摩町、島嶼部で、これらが全体の構成比を押し上げている。)

5) 産業

従業地による就業者の職業別構成



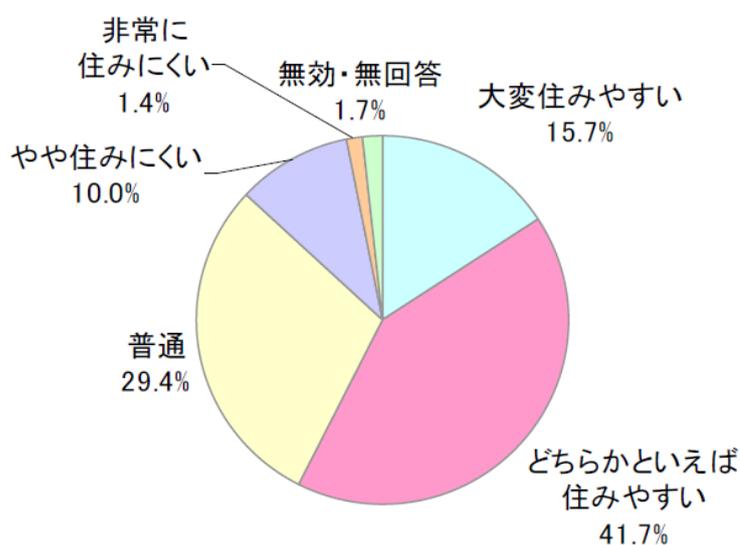
e-Stat 平成 17 年国勢調査

- ・小金井市は A.農業従業者がやや多い。
- ・小金井市の F.製造業従業者は少ない。
- ・小金井市は O.教育・学習支援業の従業者が多い。
- ・小金井市は R.公務の従業者が多い。

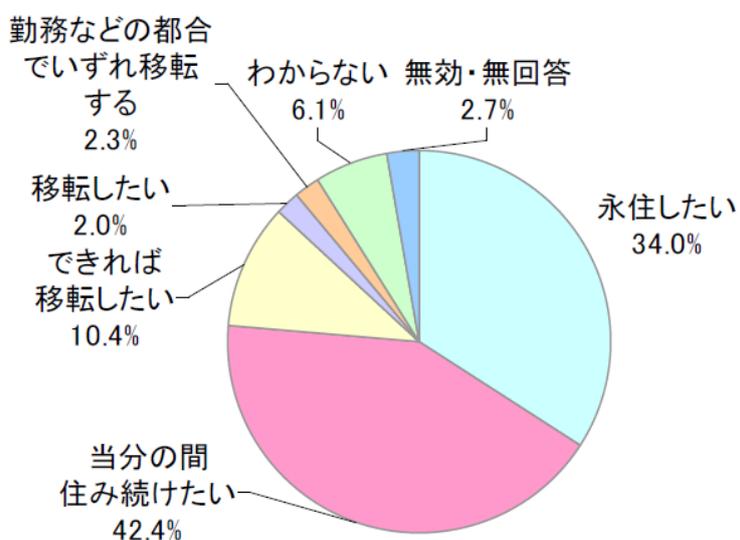
6) 「市民意向調査」にみる市民の意向

「平成20年度 小金井市長期総合計画策定のための市民意向調査報告書」から、いくつか注目すべき項目を抜粋してみました。

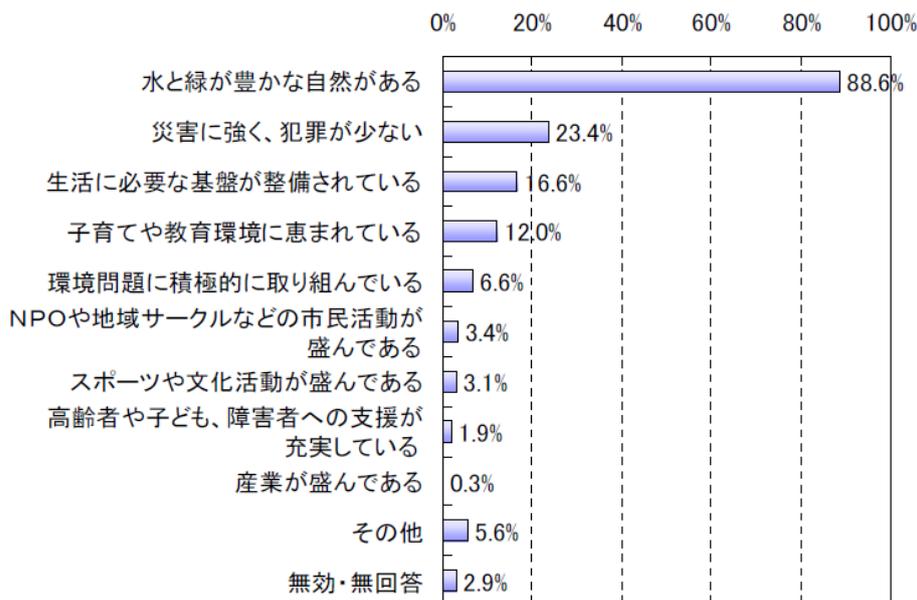
(1) 住みやすさ



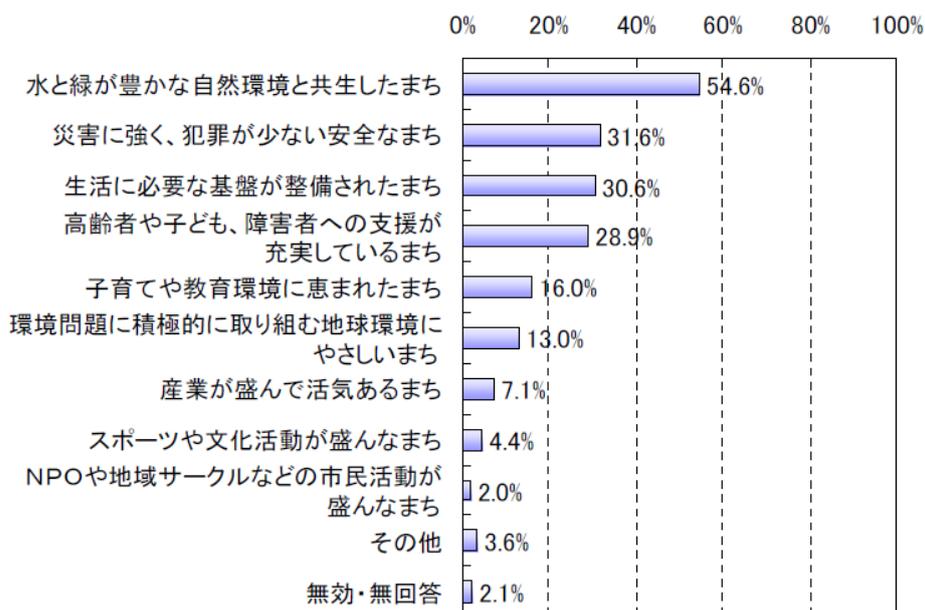
(2) 定住意向



(3) 小金井市の良いところ



(4) 小金井市の将来像



7) イベント

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 1月 新春たこあげ大会 | 9月 市民体育祭 |
| 4月 桜まつり | 10月 なかよし市民まつり、お月見のつどい |
| 7月 小金井阿波おどり | 11月 農業祭、菊花展 |
| 8月 小金井薪能 | |

2. 小金井の街を歩いて

小金井市への街づくりへの提言をまとめるに当たり、現地を見ることから始めようと、JR 小金井駅南側地域（2009年4月11日）、同駅北側地域（2009年8月1日）、京王線新小金井駅～JR 東小金井駅南北地域（2010年5月5日）の3回に分けて歩きました。いずれも天気はよく、昼から3～4時間の調査の後、駅前の居酒屋で意見交換を行いました。各自の調査を感想文としてまとめたものを抜粋し、記載することにしました。当提言書の重要な動機づけとなったものですが、多少、独断的な面もあるかと思えます。お許してください。

1) 全体の印象

(1) 小金井駅南側地域を訪ねて

はげの道や由緒ある神社・史跡が多く、散策にはよいと思います。一般の道路は狭いため、野川添いの遊歩道や河原を整備し、ここを移動のメインとして使って各スポットに導くようにしたら落ち着いた散策の気分が味わえるように感じました。休憩所設置も同様です。

また、「東京都湧水77選」に3か所選定されていることから「水」をテーマにして訴求するものや食べ物、飲み物といった何か名物になるようなものが欲しいところです。黄金の水の活用などです。



(2) 小金井駅北側地域を訪ねて

もう少し農地が多い印象がありましたが、実際はほとんどが住宅地であり、生活の町として外部からの訪問者も少なく、地域住民の利便性や生活環境の充実といった観点からの街づくりがテーマになると思われます。ただ、小金井公園・玉川上水は市外から来街客を増やす地域資源として活用する余地はあります。



一方、中央線高架による踏切廃止、南口のイトーヨーカドーへの一極集中が予想され、西友、長崎屋の動きに合わせて、駅北口商店街の浮揚策が必要になると考えられます。

(3) 東小金井駅地域を訪ねて

南北とも駅周辺から少し離れると全体的に一戸建ての住宅が多く、商業施設や事業所も少なく、比較的古くからの落ち着いた住宅地です。

駅北口周辺は古い小規模店舗や空き地も多く、開発が遅れ少し雑然とした雰囲気となっています。逆に南口周辺は若者の比率が高く活気が感じられます。

中央線高架工事が終わり、今後は南北をつなぐ道路の拡張や駅北口周辺の再開発、高架下の有効活用、南口の農工大敷地や学生の活用等により大きく変化する可能性を秘めていると思われます。

2) 調査ポイントの印象

(1) 小金井駅南側地域を訪ねて

■駅の高架化と駅前再開発：駅高架化は観光に有利

小金井市の観光資源で有力なものの一つは、小金井公園と江戸東京博物館でしょう。これは駅の北口側にあります。今回訪問したのは南口側ですが、その間には悪名高い「開かずの踏み切り」がありました。駅高架化に伴い南北交通が容易になると、南口側の観光資源も活用できる可能性があります。



・建替えが進んでいる南口商店街

アーケードはまだ古いままでしたが、店舗の殆どが建替えられていました。南口駅前の新しいショッピングモールやイトーヨーカドーとは違った独自性が出せれば、駅周辺の再開発は当商店街にとってチャンスとなるでしょう。

■滄浪泉園緑地

薬師通り側からは「滄浪泉園こちら」の立て札がありました。坂を上って滄浪泉園に入ると突然の別世界でした。よく整備されており、心地よい異空間を感じました。しかし石畳など凸凹が多く、ベビーカーの走行には難しいものでした。しかし自然は美しく、苦勞しても子供に見せた甲斐はあったと思います。泉園全体はあつという間に一周でき、こじんまりしており、国分寺の殿ヶ谷戸庭園の半分くらいという印象でしょうか・・・



■はけの道

滄浪泉園からはけの森美術館に向かって、「薬師通り」から「はけの道」を歩きました。道は普通の住宅街の静かな道という感じで、観光的要素はあまり感じませんでした。時折古くからの家と思われる豪邸がそびえていたのは印象的でした。巨大で立派な庭を持つ家も何件か見受けられ、外からわざわざ見に来る、いわゆる「観光地」「繁華街」といった地域ではありませんが、静かな雰囲気の中を歩くことができたこともあり、個人的に家を見るのが好きな私は楽しめました。

■歴史のある小金井神社

小金井神社の創立は1205年とされています。鳥居や手水鉢は天保年間（1840年頃）のもので、このあたりは明治初期まで小金井の中心地だったと思われます。111年創立の府中の大國魂神社、811年創立の立川の諏訪神社、903年創立の谷保天満宮には及びませんが、多摩地区の中では古い神社のひとつでしょう。歴史的に貴重なものが神社に残っている可能性があります。



■小金井神社～はけの森美術館を結ぶライン

小金井神社は名だたる有名神社に引けをとらない歴史を有しています。これほどの歴史を有しながら、観光資源として取り上げられてはいないようで残念です。

はけの森美術館まで歩いて10分弱、駅からこれらを往復して所要約40分です。これにはけの小路（横を水路が流れる人一人が通れる道がありましたよね）をセットにして観光資源として売り出してはいかがでしょうか。

セット化することで、文化性に富み、自然に湧き出す泉という一服の清涼剤も兼ね備えた、都会のオアシスと言ってもよい十分な観光資源になると考えられます。帰り道に六地藏の黄金の水に立ち寄り、お土産的に水を持ち帰れば、なおさらアピールになるのではないのでしょうか。



■はけの森美術館併設 オープン・ミトン



はけの森美術館に到着したら、美術館には目もくれず敷地内にある有名カフェ「オープン・ミトン」へ入りました。この店は食べログの小金井情報でランキング1位に入っているようで、期待も膨らみます。森に囲まれ立地もよく、靴を脱いであがる店内もくつろげる雰囲気非常に良いです。地上波のテレビに出てもおかしくないようなお店です。

オーナーシェフは書籍も執筆している一流シェフの方のようで、有名なミトンズシュークリームもたいへんおいしく、その他のスイーツも凝ったものが多く、どれも美味です。小金井市の目玉の飲食スポットとなるのではないかと思います。

■はけの道果樹園：小金井の農耕地

地図上で確認すると、小金井の農耕地はJR中央線の北側に多く分布しているようです。しかし、私たちが歩いた範囲でも、広々とした農地が確認されました。とは言え、農地としての認定させ続けるために園芸植物を辛うじて育てているのではという印象を受けた農地もあったように感じました。

これらを市民や、可能であれば市外の人々に開放してはどうでしょうか。別の日に小金井市役所に行き担当部署に尋ねたところ、現在小金井市内の「市民農園」は一杯で、空き待ちの状況だとのことでした。



(写真:武蔵小金井南口第一地区再開発事業 HPより)

小金井市内には低料金の市民農園以外にも、有償の市民農業塾なるものもありますが、こちらもほぼ満杯状態だとのこと。「今後このような施設を市として拡充する予定は？」とお尋ねしたところ、「今現在は、市として主体的に施設を増やすよう働きかける予定はありません。」という答えでした。ちょっと歩いただけでも、すぐに転用できそうな農地が見受けられるのに、これはもったいない事に思えます。「ワークライフバランス」という言葉で私が最初に思い浮かべたのは、マンション住まいのニューファミリーが休日は、



(写真：レストラン Mikuni marunouchi HP より)

家族で、近場で野菜作りに汗を流す姿でした。

市として市民農業活動に注力することで、江戸野菜ブームに火をつけるもよし、新たな名産作りに取り組むことも可能だと思います。

観光コースが整備され、その沿道には土いじりに勤む市民の姿が見えるという光景は、まさに都市観光に相応しいものではないでしょうか。

■おむすび研究所～はけの道果樹園

「〇〇研究所」のネーミングは、こだわりの小売店で使えそうな名前ですが、せつかくのこだわりの店が、孤軍奮闘しているといった状況で。周りに相乗効果が期待できそうなものがないかなと感じていました。目の前が中学校だから駄菓子屋の方がいいのでは、なども・・・。

しかし、そこから突然の畑になり、急にゆったりとした田舎に来た気分が味わえ、なんとなく「おにぎり」の雰囲気理解出来た気がしました。



■水量が少ないのが気になった野川



桜の咲く時期に伺い、野川は人出が多いことが分かりました。下流にある武蔵野公園や野川公園も人が集まる場所です。しかし、残念なのは、訪れた時、野川の水量が少ないことでした。小金井市は、雨水浸透ますの普及を進め、「小金井市の地下水及び湧水を保全する条例(平成16年)」などの制定もしています。ただ、小金井市、そして野川の上流の国分寺市は、ともに地下水を水道水源としています。こうした影響で崖線から流出する水量が減っているということはないのだろうかと感じました。

・遊歩道南6（はけの森美術館から野川に抜ける小路）

人家の軒先を通るような未舗装の小路があり、泉園からの湧水だと思われそうですが自然のままの小川が流れ、ところどころに石のベンチもありました。

水量は少ないがきれいな水が流れ、川の中にはカワニナやザリガニの姿が見えました。

あまり観光客が増えると住人にとっては迷惑なものとなりますが。

■人を集める黄金の水と六地藏

「黄金の水」と呼ぶ地下水は、立派な観光資源となっているようです。シンボルの「六地藏」を目印に人が集まっていました。水を汲みに来る近所の人たちが入れ替わり、立ち替わりの状況でした。今後とも大切にしたい観光資源でしょう。

■自動車運転試験場来場者を取り込めないか

小金井市でいまひとつ集客性が強い施設として、自動車運転試験場が挙げられます。

そこに来る人は、必ずしも免許交付後サッサと仕事に戻らなければならない人ばかりではないと思います。中には、せっかく小金井まで来たのだから何か見て帰るようなものはないかと考える人がいても不思議ではありません。



(写真：多摩・武蔵野情報誌
「立川オンライン」サイトより)

休憩を取った「おむすび研究所」から武蔵野公園までは歩いて5分、さらにそこから自動車運転試験場まで歩いて10分少々です。殆どの来場者は、府中駅か武蔵小金井駅からバスを利用しています。せっかく武蔵野公園や野川公園と言う素晴らしい都立公園がありながら、素通りしています。武蔵小金井駅まで歩ける距離であることを知らないばかりに、せっかくの機会

を逃してしまっている人もいないのでしょうか。市として、これらの公園、そして前述した神社や美術館の存在を宣伝し、市外からのお客様に来ていただくことも考えられるのではないのでしょうか。ただし、一気に歩くのは確かに疲れます。休憩所が「おむすび研究所」だけではすぐに一杯になってしまいます。ここは是非、武蔵野公園内もしくは野川沿いに小奇麗な休憩所を整備していただきたいものです。そして野川沿いの散策道を整備し、沿道の民家に対して補助を行い生垣に統一性をもたせるなどすれば、住宅そのものが観光資源となり、小金井のブランド価値に寄与するものと考えます。

(2) 小金井駅北側地域を訪ねて

■交通手段が弱点の小金井公園

小金井市の観光資源で最も有力なのは、小金井公園と江戸東京たてもの園でしょう。

しかし、気になったのは交通手段です。武蔵小金井駅から歩こうと思わせる距離ではありません。バスに乗ることになるのですが、西立川駅前にある昭和記念公園、駅から歩ける井の頭公園、京王線とモノレールの両方がある多摩動物公園に比べると、小金井公園への交通手段は弱点だと思います。車での来園を想定した場合も、小金井街道や五日市街道の道の狭さがマイナスです。



(写真：東京都「都立公園・庭園案内」より)

■小金井公園

この日はフリーマーケットが催され、天気もよく人はとても多かったのですが、その大部分は小さな子供をつれた家族連れの方でした。体育館近くの休憩所には多くのひとが賑わい、コンビニや飲食店、屋台には行列ができていました。ベンチやテーブルは少し待てば座れました。芝生エリアも人が多く、子供がキャッチボールなどをして遊んでいました。またアスレチックエリアも子供が多く、サイクリングロードにも自転車がちらほら見受けられました。総じて、どこも大変にぎわっていたと思います。

午後1時半ころ公園を出ると、五日市街道に延々と渋滞ができていました。入るのに1、2時間かかるのではないかと・・・と思われる長さでした。(注：この項のみ2009年5月10日)

■江戸東京たても園

今回の踏査で初めて訪れたが、江戸時代から昭和初期の文化的価値のある建物が数多く保存されていて、興味深い施設でした。当日は「屋台」「打ち水」「ビアガーデン」「盆踊り」等のイベントも行われていたため、多くの観光客で賑わっていました。本日以降も「伝統工芸実演」「ミュージアムトーク」などのイベントが定期的実施されて、子供だけでなく大人も楽しめる活動を行っているようです。また当該施設では日本の伝統的な建築文化を学ぶことができ、小学校の社会見学活動や外国人観光客の来園も期待できます。



(写真：江戸東京建物園 HP より)

しかしこのような施設・文化普及活動を行っているにも関わらず、知名度が低いのが問題で、実際私も存在を知りませんでした。公共交通機関や近隣駅等での告知を増やすことで、今以上の観光客を呼ぶことができるのではないのでしょうか。(※参考例 現在、多摩動物公園では「サタデーナイト@TAMAZOO」という土曜夜に動物園に入園できるイベントを実施していますが、京王線電車内および主要駅にポスターを大々的に張り出しています)

■かぶと山公民緑地

「かぶと山公民緑地」を歩きました。当初、何の施設か分からず、草むらの小道を2～3分歩くと、入口に戻ってきてしまいました。その時に初めて、木の看板に気が付きました。

「この緑地は市内に残る数少ないクヌギ、コナラ、クマザサの生えている雑木林です。昭和20年代の武蔵野の風景をそのまま残したような樹林です。たくさんの生き物が回復する<ビオトープ>森としてカントリーヘッジ、石積み、丸太積み、蜂宿など様々な仕掛けが施されています。・・・」とありました。読んでみて、やっこの空間の意味がわかりました。5月～8月末の4ヶ月間だけ見学が可能なのですが、



(写真：「年刊コム本 ようこそ」より)

説明もわかりにくく、どんな生き物がいるかの説明もありませんでした。

「入口に小さな溜まりスペースを作り、そこに案内の看板を設置し、ここから丸太作りの階段を5、6段上がると<ビオトープ>の空間が広がっている」といった設定はどうでしょうか。「武蔵野の生き物たちの住みか」をPRしたいものです。

■山王の窪の築樋（つきとい）

「山王の窪の築樋」は土木屋である私には興味ある史跡でした。

歩きながら、「何かおかしな風景」だと気がつきました。右を見ても左を見ても地盤が低くなっていて、自分が土手の上に立っている状況なのです。でも、なんでここに土手を築く必要があるのかわかりません。そんなことを考えながら周囲が同じレベルになった少し広い場所に出てきて、その謎がわかりました。案内看板が出ていたのです。



(写真: Waseda Book HP より)

「山王の窪の築樋」です。1969年頃の玉川上水と関係のある土木構造物とのことです。ちょっと感激でした。でも、もう少し見せるための演出が欲しいと感じました。“こてこて”とした案内はいりませんが、「この下に水路が流れている」ということが実感できる案内がほしかったです。

（3）東小金井駅地域を訪ねて

■天神社、笠森稻荷

大型スーパーのある武蔵境駅まで一駅(約3分)で、吉祥寺、新宿にも近いにもかかわらず、静かさ、のどかさ、そして大農地、天神社等、穏やかな生活空間を持った地域だと感じました。ただ、神社境内の整備状況が気になりました。



(写真: 青空のホームページより)

■よく整備されている栗山公園

栗山公園は農工大の隣にあります。子ども連れで遊ぶには手ごろな大きさと、よく整備されています。プールなどの施設もありました。小金井市が所有する公園ですが、都立の小金井公園だけでなくこうした中小規模の公園や緑地が整備されている点が、小金井の特徴ではないでしょうか。市民アンケートでも「自然が多い」という回答が多かったと記憶していますが、手付かずの大自然ではなく、手入れされた公園のことを指しているのではないのでしょうか。

■思ったより充実している東小金井南口の商店街

東小金井南口の商店街は、物販・サービス・飲食などがバランス良くあるようです。東



(写真：東小金井南口商店街 HP より)

小金井駅周辺は、小金井駅や武蔵境駅と違って、これまで大型店が進出しませんでした。最大規模のものが大丸ピーコックです。そのため生鮮品販売などの小売店も残っていて、日用品などの買い物を地元で済ませることができそうです。

一方、東小金井駅北口側は商店が少なく、駅前の商店街の絵カンバンではペンキで上塗りされている店が多かったようです。南口との差は何なのでしょう。

■区画整理で人口増の可能性のある東小金井北口

東小金井北口では、駅北東側に広がるJR敷地境に区画整理の看板が掛かっていました。かなりの広さがあります。用途はわかりませんが、高層マンション等になると人口が増える可能性があります。JRの高架化に伴って、大きく変化しそうな部分です。

■玉川上水まで農地と低層住宅が連続する街並み

東小金井駅北口から玉川上水に至るまでの地域には農地が多く残っています。住宅は南口と同様に一戸建てが主で、集合住宅は3階建てまでの低層のものです。人口を増やすためには農地を高層住宅にすることになりますが、用途地域の変更が必要でしょう。

■静寂を保つ曹洞宗 長昌寺

禅寺だけに、社寺から庭の手入れまで行き届いていて、ホッとできる空間でした。改めて、小金井神社、天神社等の整備が望まれる思いでした。

■農地・農園：

・新小金井駅周辺の農園

広い農地をやっと探し当てた気がしました。この地域で、これだけ広い農地は、もはや公共的な空間と言ってもよく、「農地ありき」の地域計画の立案を望みたいところ です。

・「ひがし市民農園」

車いすの方が利用できる農園でした。農地面が40～60cm高く、利用しやすい工夫がされています。ただ、一般部はそれなりに利用されているにもかかわらず、6面あるこの区画は何も植えられていないのが気になりました。

待望の農園を見つけたのですが、自然の農園が妙に手を加えられていたためか、多少違和感を覚えました。また、近所の農家風の整備されていない土地も残っており、今のうちに地域整備計画等の方針が欲しいと感じました。

・点在する農地

農家戸数は少ないですが、比較的規模は大きく本格的な生産農家です。他エリアの都市



農家と違い庭先販売や体験農園のような地元住民との触れ合いといった性格ではなく、専業（販売）農家として市場出荷や業者直売と思われます。

そのため、今後、販路開拓や経営改善等の取り組みが求められます。

■道路の整備（駅前、中央線で南北が分断）



（写真：東小金井 賃貸 街 Navi より）

駅前には南北ともに狭く複雑に道路が入り組んでいて、今後整備が求められます。住宅地のなかには比較的新しい道路が整備されていますが、五日市街道、JR中央線、連雀通りで南北が分断されています。結果的に落ち着いた住宅地を形成していますが、今後は中央線の高架化によって、駅前再開発や南北道路の拡張、高架下の活用等が進めば、人の流れも変わってくるものと思われます。

■その他

「環境美化サポーター制度」やバリアフリーの市民農園、整備された街路樹等、自然や緑の整備に対する行政や市民の関心は高いようです。

第2章 小金井市のSWOT分析

SWOT分析手法は一般的な企業において戦略立案を行なう際に、用いられる主要な手法です。本手法では組織の外的環境に潜む機会（O=Opportunities）、脅威（T=Threats）を検討・考慮したうえで、その組織が持つ強み（S=Strengths）と弱み（W=Weaknesses）を分析し、競合企業とのベンチマークなどを行なうことによって行なわれます。さらに、経営戦略策定のほかにマーケティング計画やバランス・スコアカード、ISOのマネジメントシステム構築など、幅広い分野で活用されます。

1. 小金井市のSWOT分析

SWOT分析により小金井市の持つ強みや弱み等を整理してみました。

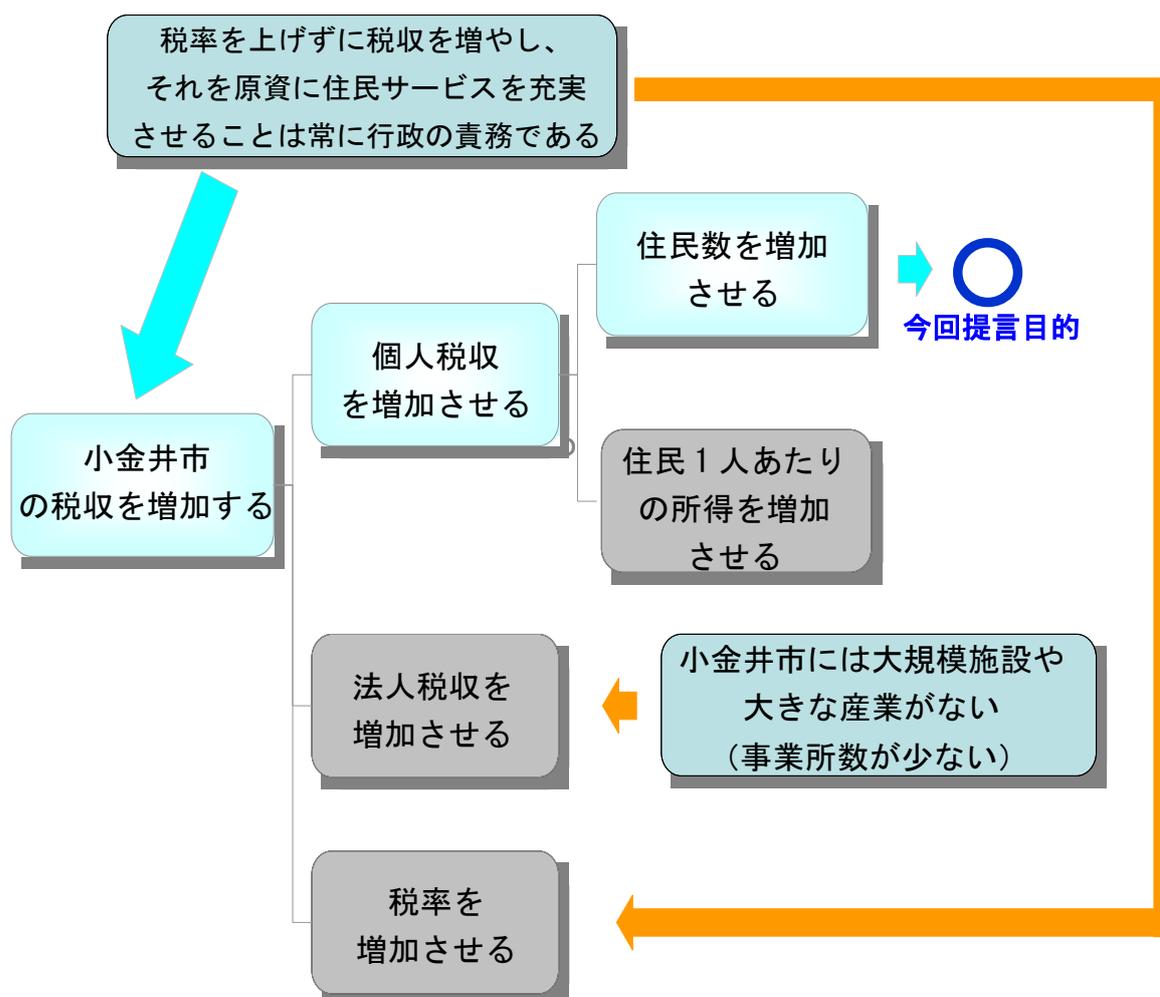
	強み（S）	弱み（W）
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR中央線で都心から30分の好立地 ・ JR中央線の始発駅がある ・ 落ち着いたある住環境がある。 ・ 南口商業施設の完成による効果。 ・ 小金井公園等の観光資源がある ・ 「水」に関わる観光資源がある ・ 江戸東京野菜、地場野菜の活用が可能（観光資源） ・ 大学が多い：文化発信、学生生活活用 ・ 男女共同参画社会の推進を行っている ・ 人口が増加している ・ 「こきんちゃん（宮崎駿）」がイメージキャラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して過せる施設・道路が少ない ・ 名所旧跡のアピールが少ない ・ 大規模商業施設や大きな産業がない ・ 農園が少ない ・ ごみ問題の深刻化 ・ 市の財政状況の悪さ ・ 高度医療実施機関がない ・ 昼間の流出人口が流入人口を上回る
	機会（O）	脅威（T）
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央線高架化（住民の利便性向上） ・ 「ワークライフバランス」の意識向上 ・ 「ロハス」的な志向の高まり ・ 「都市観光」の考え方の広がり ・ 「地産地消」の考え方の浸透 ・ 子供手当創設による人口増加期待 ・ 自宅や地元で過ごす時間の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣地域での大型商業施設誕生等 ・ ETC割引に伴う観光客の流出懸念 ・ 少子高齢化の進展 ・ 景気の悪化 ・ 不動産価格の下落 ・ 天候不順：集中豪雨、ゲリラ豪雨 ・ 商店等中小企業の後継者不足

小金井市の特徴を一言で表現すると「都心から電車で30分程度の距離にもかかわらず、大規模で緑豊かな公園や豊富な「水」等の観光資源を有した、落ち着いた住環境を保っている地域」と言えると思います。

2. 小金井市への提言の目標

SWOT分析により、小金井市の持つ「強み」「弱み」や小金井市を取り囲む外部環境としての「好機」「脅威」について考えてきましたが、これらを踏まえたうえで「小金井市への提言の目標」について、行政の責務の面から考えてみました。

一般的に、行政の責務としては税率を上げずに税収を増やし、それを原資に住民サービスを充実させることにあるといえます。しかし、さきのSWOT分析における「弱み」にも見られるように、小金井市のような大規模施設や際立った産業の無い自治体で税収を増やすためには、下図に示すように、住民数（生産人口）の増加と、ひとりあたりの所得増が重要であると言えます。このため、小金井市の人口の増加可能性を住居施設面から概略検討を行ってみました（巻末の参考資料参照）。結果は、6,000人程度の人口の増加は可能であるとなりました。このことから、当提言書の目的を「10年後に6,000人の人口増を目指す」と設定しました。



3. クロス分析「10年後に6,000人の人口増を目指す」

当提言書の目的を「10年後に6,000人の人口増を目指す」と設定してみましたが、この視点から改めてSWOT分析を見てみると、

- ・ワークライフバランスの意識向上
- ・「都市観光」の考え方の広がり
- ・「地産地消」の考え方の浸透

という「機会」が目につき、それに対し、小金井市の強みである「観光資源」、あるいは「弱み」である「大規模商業施設や大きな産業がない」が目につきます。

「ワークライフバランス」については、2007年（平成19年）末、政府、地方公共団体、経済界、労働界の合意により、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定され、現在、官民を挙げて様々な取組が進められています。日本では少子化対策・男女共同参画の文脈で語られることが多いですが、出生率向上・男女均等政策のみならず、労働時間政策、非正規労働者政策など働き方の全般的な改革に関わると考えます。

一方、小金井市の多摩東部の都心に近いという立地上の強み（SWOT分析の「JR中央線で都心から30分の好立地」、「JR中央線の始発駅がある」）を考えると、都心近郊の自治体が「ワーク」と「ライフ」の両方の強みを有する必要性はなく、あえて「昼間の流出人口が流入人口を上回る」ことを弱みと捉える必要がなくなります。また、小金井市の上記立地上の強みが「弱みの克服」にあたることも考えられることから、「どの様に強みを活かすか?」「どの様に機会を利用するか?」という点に着目しながら、小金井市の将来を考えていくべきと思われる。

以上のことから、「10年後に6,000人の人口増を目指す」を目的として、これらを具体化する対策を、外部環境の機会(O)、脅威(T)と、その内部に持つ強み(S)、弱み(W)の4つの要因を組み合わせた、クロスSWOT分析手法を用いて導き出してみました。更に、前述の通り、「ワーク」は他の自治体に任せ、勤労者の「ライフ」を担う役割が小金井市の今後の方向性となると考え、対策案をまとめております。

結果として、次のような対策が浮かび上がってきました。

【強み(S)×好機(O)による対策】： ■参加型の街づくり ■健康・安全な街づくり

【弱み(W)×好機(O)による対策】： ■働きやすい街づくり

【強み(S)×脅威(T)による対策】： ■市内観光スポットの整備・活用・掘り起こし

【弱み(W)×脅威(T)による対策】： ■商店街振興

これらの対策から、私たちは提言の取り組みテーマとして『住んでよし、訪れてよし、の街づくり』を導き出し、先の「都市観光」「ワークライフバランス」をキーワードに提言を考えてみました。これについては、第3章でもう少し補足してみます。

小金井市の「10年後に6,000人の人口増を目指す」ためのSWOTクロス分析

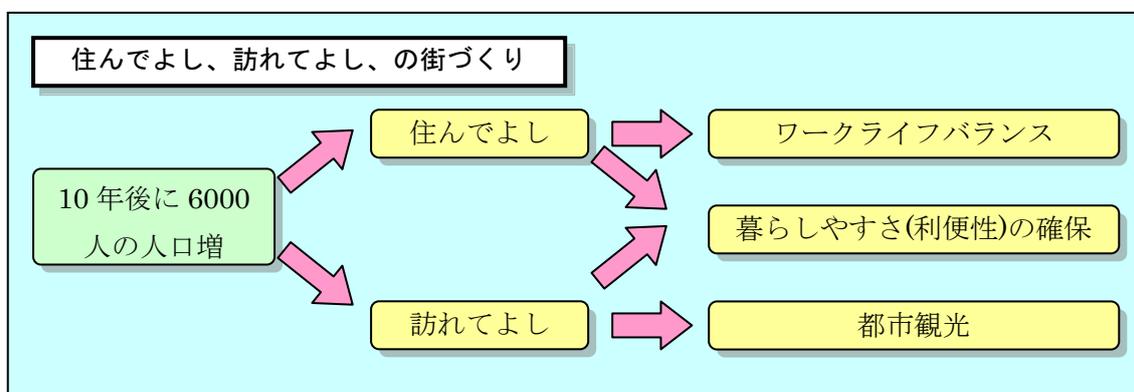
<p>対象者：勤労者層</p> <p>目標：10年後に6,000人の人口増を目指す</p> <p>キーワード</p> <p>：ワークライフバランス</p> <p>：都市観光</p>		内部環境	
		強み（S）	弱み（W）
		<ul style="list-style-type: none"> ・JR中央線で都心から30分の好立地 ・JR中央線の始発駅がある ・南口商業施設の完成による効果。 ・落ち着いたある住環境がある。 ・小金井公園等の観光資源がある ・「水」に関わる観光資源がある ・江戸東京野菜、地場野菜の活用が可能（観光資源） ・大学が多い：文化の発信、学生の活力を活用 ・男女共同参画社会の推進 ・人口が増加している ・「こきんちゃん（宮崎駿）」がイメージキャラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過せる施設・道路が少ない ・名所旧跡のアピールが少ない ・大規模商業施設や大きな産業がない ・農園が少ない ・ごみ問題の深刻化 ・市の財政状況の悪さ ・高度医療実施機関がない ・昼間の流出人口が流入人口を上回る
外部環境	機会（O）	<p>【S×Oによる対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■参加型の街づくり ■健康・安全な街づくり 	<p>【W×Oによる対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■働きやすい街づくり
	脅威（T）	<p>【S×Tによる対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■市内観光スポットの整備・活用・掘り起こし 	<p>【W×Tによる対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■商店街振興

第3章 ワークライフバランスとまちづくり、 都市観光とまちづくり

私たちは、小金井市への提言を「10年後に6,000人の人口増を目指す」ためにはどうしたらよいか、の観点から取り組んできました。

人口を増やすためには、市内に住んでいる人が住み続けたいと想い、訪れた市外の人に住んでみたいと思ってもらうことが重要ではないか、と考えました。一言で言えば「**住んでよし、訪れてよし、の街づくり**」となります。

住んでよかった、訪れてよかった、と思う前提として、暮らしやすさ(利便性)の確保が前提となることは言うまでもありません。



1. ワークライフバランスとまちづくり：生きがい・余暇の充実

小金井市に住む人々が、小金井市の街を「住んでよし」と感じれば、街から離れていく人は少なくなるでしょう。それには、都心までの通勤時間が短いという利点を活かし、週末や平日帰宅後に「仕事を離れた後の充実した生活や時間」が過ごせ、その結果としてワークライフバランスを実現する街づくりが望まれます。

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」（平成19年12月）では、仕事と生活の調和が実現した社会は、

国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会

とされています。

生きがい・余暇の充実を図る観点から、仕事マイスター制度や技術・文化の伝承制度の充実や、体験農園・ランニングコースの設定といった施策について提言をします。

2. 都市観光とまちづくり：街の魅力・活気の創出

市外の人たちに、先ず小金井市を「訪れてみたい」と考えていただき、訪れた結果「移り住んでみたい街」だと感じていただければ、自ずと小金井市の人口の増加につながります。

「平成20年度 小金井市長期総合計画のための市民意向調査報告書」によれば、「観光振興の推進」は「重要度の低い取組」として挙げられています。「観光」と言うと、ともすれば温泉滞在＋景観探勝・寺社巡りのようなことが想起されますが、このような意味での「観光」は市民に望まれていないということであると思われます。

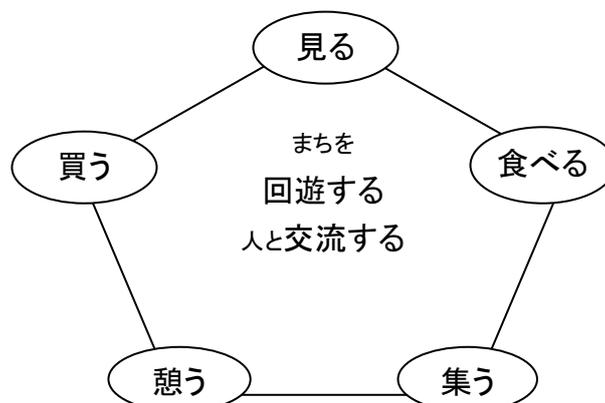
しかし、来街者の目を意識して街を整備することは、都市景観の向上、市民の自信と誇り、生活の質の充実など、ひいては都市生活の豊かさの向上に結びつきます。

本提言では「観光」を軸とした産業振興ということではなく、市外の人が訪れてみたいと思うまちづくり、市内の人が日常気軽に都市観光を楽しめる憩いの場としてのまちづくりをメインに考えます。

さて、都市観光とは、次のように説明されています。

都市観光は都市の有する歴史的、文化的遺産を活かした都市観光の創設、現代都市としての機能、娯楽、商業、サービス等を観光資源と位置づけることができる。名所・旧跡を見るところといった従来型の「観光」ばかりだけでなく、芸術、アミューズメント、ショッピング、飲食を楽しんだり、その都市の町並みや文化遺産など歴史・文化に触れたり、市（いち）などを訪れ市民の暮らしに接し、地域の人々と交流するなど、都市の様々な魅力を体験する事を総称した概念。(Wikipedia)

また、都市観光における「まちを回遊する・人と交流する」魅力要素として次の5要素が示されています。（「都市観光でまちづくり」 学芸出版社）



小金井市には、はげの道、玉川上水、公園、歴史のある寺社、地域の多様な行事、ラーメン街道といった多様な観光資源があります。既に市内に存在する有形・無形の資産を有

効に活用してこの街の魅力を向上させる「都市観光」を実現するにはどのような仕掛けが必要か、という観点から提言します。

3. 暮らしやすさ(利便性)の確保

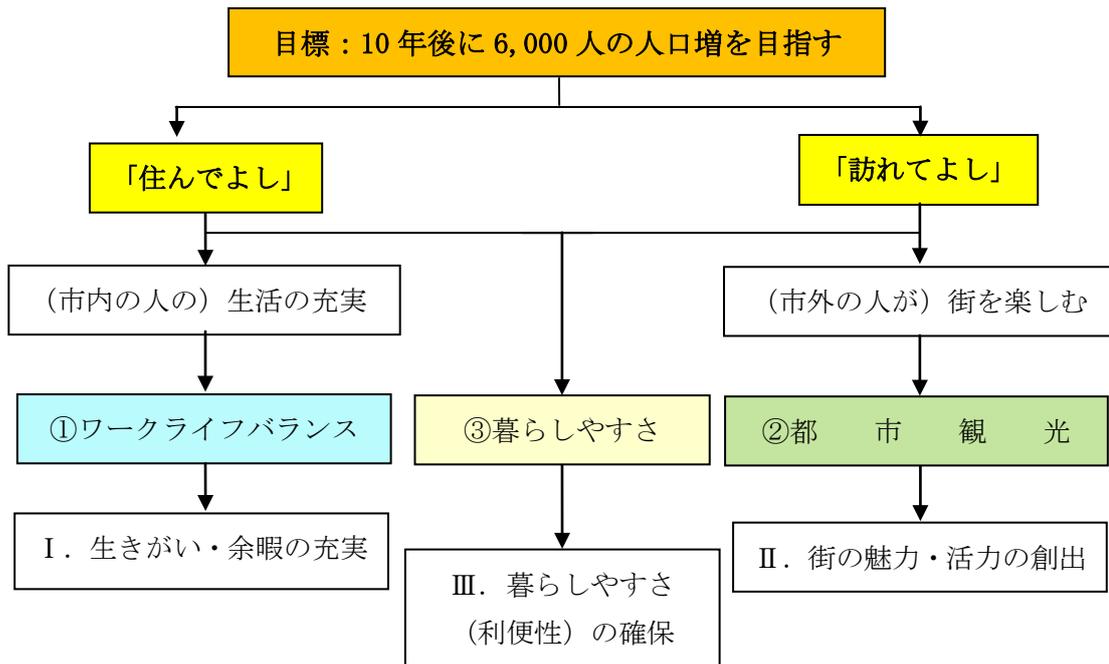
小金井市の住民、また新たに住民となる人々が、より小金井市に「住みたい」と思っているためには、「生きがい」や「街の魅力」への提言の他にも日常生活のシーンにおいて「住んでいて良かった」と感じられることが必要です。そのため、この地域内での「暮らし」と「仕事」の両面からの生活のバランスを保つインフラの整備という観点から提言します。

以上の観点により、次章では「10年後に6,000人の人口増を目指す」の目標に対しての具体的な提言を行いたいと思います。

第4章 小金井の街づくりへの提言

当提言は、『小金井市の人口を、10年後に6,000人の人口増を目指す』を目標に、「住んでよし、訪れてよし、の街づくり」テーマをとし、「ワークライフバランス」「都市観光」「暮らしやすさ」をキーワードとしてまとめました。改めて提言の全体構成を示します。

1. 提言書の基本的な考え方の整理



2. 提言のまとめ

I. 『生きがい・余暇の充実』への提言

小金井市に住む人々が、小金井市の街を「住んでよし」と感じれば、街から離れていく人は少なくなるでしょう。それには、都心までの通勤時間が短いという利点を活かし、週末や平日帰宅後に「仕事を離れた後の充実した生活や時間」が過ごせ、その結果としてワークライフバランスを実現することができるでしょう。そのためにはどのような仕掛けが必要か、という観点から導き出された諸提言です。

【提言 I-1：ワークライフバランス取り組みへの表彰や認定制度を創出する】

【提言 I-2：仕事や文化伝承の「こがねいマイスター」制度を創設する】

【提言 I-3：ランニングコースを設定し市民のスポーツ活動を支援する】

【提言 I-4：体験農園を整備する】

【提言 I-5：年間を通して楽しんでもらえるイベントを計画する】

【提言 I-6：地元大学生のアイデアを小金井名物市に生かす】

Ⅱ. 『街の魅力・活気の創出』への提言

現在市外に住んでいる人たちに、先ず小金井市を「訪れてみたい」と考えていただき、その結果「移り住んでみたい街」だと感じていただければ、自ずと小金井市の人口の増加につながります。既に市内に存在する有形・無形の資産を有効に活用してこの街の魅力を向上させる「都市観光」を実現するにはどのような仕掛けが必要か、という観点から導き出された諸提言です。

- 【提言Ⅱ-1：市内観光スポットの来訪者受け入れ態勢を整備する】
- 【提言Ⅱ-2：ピクニックランド構想で3つの都立公園の魅力度をアップする】
- 【提言Ⅱ-3：黄金の水を活用したオリジナル商品を開発する】
- 【提言Ⅱ-4：ラーメン街道にパーキング・メーターを設置する】
- 【提言Ⅱ-5：地元野菜の地産地消を進める】
- 【提言Ⅱ-6：「小金井市 ご当地検定本」を発行する】

Ⅲ. 『暮らしやすさ（利便性）の確保』への提言

小金井市の住民、また新たに住民となる人々が、より小金井市に「住み続けたい」と思ってもらえるためには、「生きがい」や「街の魅力」への提言の他にも日常生活のシーンにおいて「住んでいて良かった」と感じられることが必要です。そのため、この地域内での「暮らし」と「仕事」の両面からの生活のバランスを保ったインフラの整備という観点から導き出された諸提言です。

- 【提言Ⅲ-1：『子育てのしやすいまち宣言』を行う】
- 【提言Ⅲ-2：学童保育施設や企業内保育施設の設置を促進する】
- 【提言Ⅲ-3：市民参加による「歩行者優先道路」を推進する】
- 【提言Ⅲ-4：住みやすい街を目指し「案内板」を充実させる】
- 【提言Ⅲ-5：小金井の水資源を支える雨水浸透マスの認知度を上げる】
- 【提言Ⅲ-6：リサイクルを推進し、エコロジー都市を目指す】
- 【提言Ⅲ-7：東小金井駅の周辺を整備する】
- 【提言Ⅲ-8：起業をはじめとするワンストップ相談や支援施設を設置する】

※なお、提言内容は以下の構成でまとめています。

【提言：○○○】：提言として一言で表現

【提言の想い】：提言の効果を意識し、提言内容を補足するもの

【提言の背景】：現状、現状の問題点、他自治体との比較等客観的な内容

【提言 I-1：ワークライフバランス取り組みへの表彰や認定制度を創出する】

【提言の想い】

ワークライフバランスに対する事業者の意識を高め、社内における環境整備や促進につながる各種制度の導入を具体的に促進するため、行政として経営者向けのセミナー開催、専門家派遣等により日常的な啓発活動を行うとともに、各種制度により先行事例を作っていくことが有効と考えます。

【提言の背景】

「ワークライフバランス」への取り組みは、国の方針を受けてスタートし、東京都も平成 21 年度に「実践プログラム」を作成し本格的な取り組みを開始していますが、残念ながら現状は、特段に多くの中小企業では意識が高いとはいえず、一方で経営資源の限界や収支構造が不安定なこともあり、取り組みは十分にすすんでいません。

こうした中で、都内各区市町村でも、様々な促進策を講じることによって啓発活動や企業が取り組むきっかけづくりを行っています。東京都のホームページから促進策を種類別にみると以下のとおりです。

- ①助成金、奨励金、融資利子の優遇・斡旋：千代田区の「次世代育成支援行動計画策定奨励金」、「中小企業従業員仕事と育児支援助成金・奨励金」等
- ②認証・表彰等：調布市の「一般事業主行動計画策定事業所の表彰」等
- ③コンサルタント、アドバイザー等派遣：中央区のワークライフバランス推進企業の認定」等
- ④育児との両立支援事業：小平市の「病後児保育事業「ファミリーサポートセンター」等

一例として、町田市では「仕事と家庭の両立推進企業」表彰制度といった制度を実施しています。平成 20 年度から開始し、20 年度 7 企業、21 年度 4 企業を表彰。事例をパンフレットやホームページで紹介しています。

**2010年度 町田市
仕事と家庭の両立推進企業
募集!**

町田市では、仕事と生活の両輪（ワーク・ライフ・バランス）推進に積極的に関わり、市内の企業及び事業所を募集しています。仕事と家庭の両立を支援し、男女ともに働きやすい職場環境づくりを積極的に進める企業及び事業所を表彰し、その取り組みを「広報まちだ」、「町田市ホームページ」、「受賞企業紹介リーフレット」等で紹介します。是非ご応募ください。

適合の受賞企業（町田市ホームページで紹介しています。）
神奈川電機システム開発（株）、（株）協栄スイニダクラブ町田、
（株）経営支援、（株）サンジストシステムズ、（株）セイキ製作所、
（株）ソフト開発、（株）多摩スプリング、（医社）三匠会館川記念病院、
（株）久美堂、（医社）美善堂エリウ病院、（株）朝日（SI 業務）

主催：町田市
協力：町田市勤労者福祉サービスセンター、町田職工会館所、
町田職業協会、町田法人会、町田市法人立役者懇話会、
町田労働基準協会（50 労働）

カエル! ジャパン
Change! JPN
町田市では、仕事と生活の両輪（ワーク・ライフ・バランス）推進に積極的に関わり、市内の企業及び事業所を募集しています。仕事と家庭の両立を支援し、男女ともに働きやすい職場環境づくりを積極的に進める企業及び事業所を表彰し、その取り組みを「広報まちだ」、「町田市ホームページ」、「受賞企業紹介リーフレット」等で紹介します。是非ご応募ください。

【提言 I-2：仕事や文化伝承の「こがねいマイスター」制度を創設する】

【提言の想い】

市内には、様々な業種において、その道を極め優れた技術を有する多くの市民がおられると思いますが、そうした市民を「こがねいマイスター（仮称）」として認定することにより、技能やノウハウそのものの継承につながり、かつ本人の更なる技術向上への励みにもなることが期待できます。

【提言の背景】

「2007年問題」として、特にモノづくり技術の伝承が課題として大きく取り上げられました。モノづくりに限らず、各業界における長年の経験や優れた技術を持つ市民、地域の伝統文化や暮らしに深い関わりを持つ市民を認定し、様々な機会を捉えて広く紹介することによって、社会的評価を高めると同時に後継者の発掘・育成をはかります。

「マイスター」制度は、かつてドイツにおける熟練工の資格制度（称号）として発展したのですが、日本国内の自治体において、技術の継承・育成や地域の活性化のための称号として制度を設定しているところも多くみられます。

<事例>

○「横浜マイスター」（横浜市 平成8年度から実施）

「手仕事・手作業を中心とし習得に経験と熟練を要する技能職種」とし、

- ①「装う」（美容師、和装師など）
 - ②「食べる」（調理師、菓子職人など）
 - ③「住む」（洋家具職人、板金技能士など）
 - ④「暮らす」（印章彫刻士、和竿士など）
- の4部門で選定（横浜市のHPを参照）

○「かわさきマイスター」（川崎市 平成9年度から実施）

「手」や「道具」等を駆使し、極めて優れた技術・技能を発揮して市民生活を支える「もの」をつくりだしている現役の技術・技能職者（市内に1年以上在住・在勤、40歳以上で応募職種に勤続25年以上）を認定

横浜市同様、様々な職種の市民を認定（川崎市のHPを参照）

その他、「彩の国青年マイスター」（埼玉県）、「ものづくりマイスター」（茨木県）等県での選定が多いが、「あさき健康マイスター」（愛知県尾張旭市）、「高技能者マイスター」（福岡県大牟田市）などもある（「ウィキペディア」より）

当市においても、市内在住者や市内の事業所に勤務者している方を対象に、基準を定めて「こがねいマイスター」として認定し、「マイスターのいる店（会社）」といったプレート等の掲示、セミナーや体験会、学校教育への派遣等の取り組みを行うことが有効と考えます。

【提言 I-3：ランニングコースを設定し市民のスポーツ活動を支援する】

【提言の想い】

小金井市民に健康的な暮らしをおくってもらうためには、適度な運動がかかせません。そこでランニングコースを設定し、市民のランニングやウォーキングへの取り組みを推進します。

ワークライフバランスが進展することで、市民にこれまで以上の「自分の時間」が増えることが予測されます。この時間を余暇やレジャーにあてたり、自己啓発のための学習活動を行ったりすると思われませんが、小金井市では、市民が「自分の時間」を健康増進にあてるような取り組みを行います。健康な市民を増やすことは将来の医療費削減につながり、本市にとってもメリットが大きいはずで

【提言の背景】

現在の日本ではジョギング、ランニング愛好者は 300 万人超とされています。手軽に始めることができる運動で、ワークライフバランスが進展することで、さらに愛好者が増えると思われています。またランニングは生活習慣病（肥満・高血圧・動脈硬化など）の防止にも有効です。生活習慣病は、運動不足や偏った食生活が原因となっています。ランニングを定期的に行うことで、体内の新陳代謝を高め、肥満や老化防止、ストレス解消が可能となり、健康的な生活をおくることができます。



小金井市は規模の公園が数多くあり（東京都市部では第3位 平成19年「公園調書」より）、小金井公園や野川公園など面積の大きい公園も複数存在します。また滄浪泉園や山王稲穂神社、小金井神社など旧所名跡が市内各地に点在しており、さらに玉川上水や野川沿いの遊歩道もあります。これらを結びあわせることで、市民にとって魅力的なランニングコースを作ることが可能となります。

コースは距離別に1km、3km、5km、10km、ハーフマラソン、フルマラソンといった具合に設定し、年代やランニング経験の有無を問わず、誰もが参加しやすいようにします。さらに「初心者なら〇〇分」「上級者は〇〇分以内」「オリンピック代表クラスなら〇〇分で走破」といった目安を設定し、市民の向上心・達成感を刺激します。

多摩川河川敷には「たまりバー50キロ」というコースが設置されています。羽村市から大田区までの50kmをランニング、ウォーキングが出来るようになっていますが、0.5kmまたは1kmごとに距離表示が出ています。ランナー・ウォーカーは走ったり、歩いたりする目安を持っているものなので、非常に便利なものとなっています。現在、小金井公園周辺はランニングコースとしては整備されていませんが、多くのランナーに利用されています。距離表示を設置することで、今すぐにでもより利用しやすいコースになるはずで

【提言 I-4：体験農園を整備する】

【提言の想い】

ワークライフバランスの進展で余暇時間が多くなることが予測されます。この時間を子供と接する時間に費やす人々が今後は増加するのではないのでしょうか。最近では厚生労働省が「イクメンプロジェクト」を推進しています。男性も育児へ参画しやすいように、育児・介護休業法の改正や企業等に対して意識変革を促しています。育児・子育てへの関心はもはや女性だけのものではなく、一家で考えるものとなってきています。

そこで小金井市では、親と子供と一緒に学んだり、体験したりする機会を提供していきます。子供を持つ親が住む場所（市町村）を選択する際に、安全性や教育環境等を考慮しますが、小金井市では「親と子供と一緒に学べる場」が数多くあることをアピールします。そうすることで小金井市への関心を高め、ファミリー世帯の支持を得ることが可能となります。平日は仕事で都心に出かけ、なかなか子供と接する機会が少ない親でも、休日には遠くに行かなくとも家の近所で、親子で触れ合う機会を市が積極的に設けるのです。

【提言の背景】

具体的には「親子体験農園」を企画します。小金井市の土地面積に対する田畑の構成比は 12.8%と多摩地域 11.0%、東京都 9.1%を上回っています（東京都統計年鑑平成 17 年）。この市内に数多く点在する農園を活用し、親子で農業を体験できるようにします。今日では親世代でも農業に触れる機会はほとんどないはずですが、家の近所の畑で、休日の青空の下で、親子で一緒に汗をかきながら作物を植付け、収穫することで、その絆はより深まるはずですが。

<平成 21 年度三鷹市親子体験農園>

三鷹と水と土七
大沢の畑で行う親子体験農園 参加者を募集します！
三鷹市内在住の中学生以下の子どもとその親(保護者)を対象に、平成21年度の親子体験農園参加者を募集します。
募集先、種付けから収穫までのスケジュール、親子で一緒に農作業を行います。



- 対象
市内在住の中学生以下の子どもとその親(保護者)
参加費
一家庭500円(第1回開催時にお支払いください)
作業予定
種付けから収穫までの作業予定
- ①平成21年4月25日(土)
サツマイモの苗植えとトウモロコシの植え込み
②平成21年8月上旬予定
トウモロコシの収穫とサツマイモのつる返し
③平成21年10月下旬予定
サツマイモと大根の収穫
*除草などの作業については、適宜ご案内します。
- 会場
大沢ふるさとセンター前農園(大沢2丁目、七中隣接)

このページのトップへ

参考として三鷹市で行っている親子体験農園の案内をご紹介します。三鷹市では特定非営利活動法人「花と緑の街三鷹創造協会」へ事業移管し、定期的に体験農園を開催しています。春の植え込みに始まり、秋には収穫を行うというスケジュールで運営されています。作物は植え込みから収穫にいたるまでの間、数多くの農作業が必要となりますが、NPOが事業主体となることで、この点をカバーしています。また高齢者等のシルバー人材を活用することで賄うこともできるでしょう。小金井市でも定期的に開催し、親子の支持を獲得します。

【提言 I-5：年間を通して楽しんでもらえるイベントを計画する】

【提言の想い】

マーケティング用語に顧客生涯価値（Life Time Value）というものがあります。この価値は、顧客が企業の製品・サービスに対して、一生の間に購入した金額で表されます。一般的には長期間、顧客と付き合うことで価値が向上すると考えられています。一回に多額の買い物をした顧客（10万円×1回）を重視しがちですが、小額だけでも長い間、自社の顧客（1万円×12回）となってもらえることに価値があるということです。

そこで小金井市では、「市民生涯価値」を高めることに焦点を当て、定期的にイベントを開催します。今後増えることが予想される余暇ですが、小金井市では年間イベントを提案することで、市民の余暇を充実させることが期待できます。

【提言の背景】

年間イベントは、どの年齢層を対象とするかも大切です。ここでは親子で参加できるものを考えてみます。1年を通して実施しますので、四季を考慮したものが参加者の満足も得られると思われれます。

<小金井市 ○○年度 ファミリー年間イベント>

- ・4月 これから1年間よろしくお願いします。開校式
- ・5月 小金井の自然を守りたい「親子で野川清掃」
- ・6月 小金井の水資源を支える「雨水浸透マス」とは？
- ・7月 「踊らにゃソソソソ」親子で出よう！小金井阿波おどり大会
- ・8月 夏の自由研究はお任せ「清里山荘で夜空を観察」
- ・9月 小金井の隠れた名所旧跡散策（小金井神社、なんじゃもんじゃ通りなど）
- ・10月 こんな野菜食べたことある？江戸東京野菜でクッキング
- ・11月 WALK&RUN フェスタ「親子で一周 小金井公園」
- ・12月 ジブリ人気キャラクターをスタンプにしよう（年賀状へ押印）
- ・1月 50年前のお正月の遊び in 江戸東京たてもの園
- ・2月 バレンタインデーチョコ作り「男の子は自分で作って食べよう」
- ・3月 1年間よく頑張りました。終了式

上記は一例ですが、小金井市にある資源を存分に活用しました。小金井市の良さを親子であらためて認識することで、住んでいる街への愛着も沸くでしょう。また全日程に参加した親子へは表彰状を授与し、市報やHPへアップする等のインセンティブを付与することで、参加への動機付けを行うことも効果的だと考えられます。

【提言 I-6：地元大学生のアイデアを小金井名物市に生かす】

【提言の想い】

小金井市には大学・短期大学・高等専門学校をあわせ6校あり、東京都では9番目です。これらの学生の一部は小金井市に居住・下宿して学校へ通っていると思われませんが、卒業後はどこに住むのでしょうか。就職先が関東近辺でなければ転居せざるを得ないでしょう。しかし東京近郊で働くのであれば、小金井市に住み続けてもらうことで人口を増加させることができます。そのためには学生に「小金井に住みたい」と思ってもらうことが大切です。学生に小金井市への愛着を持ってもらい、継続して居住してもらうことが重要です。

【提言の背景】

小金井に愛着を持ってもらう方法として、学生が主体的に関わるイベントを行います。小金井市の大学から高等専門学校の学生数は30,352人です。これは東京でも八王子市(173,658人)、町田市(73,768人)、武蔵野市(32,320人)に次いで4番目に多い人数となっています(「平成19年度学校基本調査報告」より)。

地域行事への参画とそこで起こる近隣住民との触れ合いを通して、愛着を醸成していきます。例えば、小金井市では毎年「黄金井名物市」を開催しています。2010年度で10回目となりますが、屋台にて市内の名物店による「小金井をテーマとした料理」の提供や「かるたとりクイズ」等のイベントを行っています。ここに学生が主体として企画した屋台やイベントを参加させることを提言いたします。

＜2010年おらほせんがわ夏まつり＞

8月3日(火)	
メインステージ	パレード～高校区通り～
PM 5:30～ オープニング	PM 6:00～ 騎物(トックラブ)
5:35～ 結婚の70年代 歌謡歌謡 [myun's club (あゆみ学園)]	6:10～ 美由エイサー「真ら舞」
5:55～ 白百合女子大学チアリーディング部 [TRECKLESS]	6:20～ 白百合女子大学 チアリーディング部 [TRECKLESS]
6:05～ ジャズダンス [Bless You Dance Company]	6:30～ サンバ「パルワロス」
6:20～ 阿波踊り「いるは津」	6:45～ 舞社「桐野学生舞 長巻隊」
6:35～ 阿波踊り「だるま津」(後演「歌舞伎津」)	6:55～ 阿波踊り「いるは津」
6:50～ ダンスとコント「KIX BACK DANCERS」	7:05～ 阿波踊り「だるま津」 (後演「歌舞伎津」)
7:05～ 実行委員長挨拶・来賓挨拶	7:15～ よさこい [JAマイズ 女性部]
7:15～ 和太鼓「舞臺比賣女」	7:25～ よさこい [騎物よさこい組 舞臺]
7:30～ 「COOL」(10代を中心としたダンスユニット)	
7:45～ 桐朋学園短期大学演劇専攻「フォーモンス 長巻比賣」(舞やから和ダンス)	パレード～日比谷区～
8:15～ サンバ「パルワロス」	PM 6:20～ よさこい [JAマイズ 女性部]
8:45～ 沖崎製作エイサー [桐野舞団 阿波舞太鼓]	6:30～ よさこい [騎物よさこい組 舞臺]
終了予定 PM 9:20	6:40～ 騎物(トックラブ)
	6:50～ 美由エイサー「真ら舞」
	7:00～ 白百合女子大学 チアリーディング部 [TRECKLESS]
	7:10～ サンバ「パルワロス」
	7:20～ 舞社「桐野学生舞 長巻隊」
	7:40～ 阿波踊り「いるは津」
	7:50～ 阿波踊り「だるま津」 (後演「歌舞伎津」)

飲食店は各種免許の関係ですぐには難しいでしょうが、雑貨店や服飾店は可能でしょう。単なる出店だけの留まるのではなく、大学対抗で屋台の売上金額を競う形式を取り入れます。また「一日チャレンジショップ」を開催できれば、起業家精神を養ってもらうこともできます。

このような学生を活用しているイベントが近隣にもあります。調布市の仙川商店街協同組合の事例を紹介します。主催する「おらほせんがわ夏まつり」では、地元大学の白百合女子大学や桐朋学園短期大学の学生によるダンスやパフォーマンスを行っています。ぜひ小金井市でも地元学生が活躍する機会を設けて、市への愛着を深めてください。

【提言Ⅱ-1：市内観光スポットの来訪者受け入れ態勢を整備する】

【提言の想い】

市外から来訪頂ける人々には、小金井市のことを「こんな都心から近い場所に、名所旧跡が多い素敵な街だ」と感じて頂きたいものです。

しかし現状は、地域資源に指定されている小金井公園は別格として、武蔵小金井駅南側にある観光資源、例えば小金井神社、はげの道、野川沿いの遊歩道などにはベンチもありません。このままでは、せつかくの「訪れてよし」につながる機会を逃し続け、ひいては将来的な市の発展の芽を摘んでしまうことにもなりかねません。

逆にこれらが整備されれば、来訪者が落ち着いて小金井の良さを感じることで「住んでみたい」と思うきっかけになりますし、将来的な人口増加にもつながると期待されます。

【提言の背景】

ゆっくり腰をおろして休憩くらいはできないと、疲れたという印象ばかりが来訪者の頭に残ってしまい、「訪れてよかった」という印象になりません。案内板についても同様で、散策に興じても、道に迷いながらでは、楽しいはずの散策も辛い彷徨になりかねません。

とは言うものの、小金井市が観光に使える予算や対応する職員数も限られた枠しかないようです。ですからこれらハードへの投資は必要最小限に抑える必要があるでしょう。そこで、足りない分は「人による暖かいおもてなし」でカバーしていくという考え方を提案します。具体的には、「シルバー観光ボランティア」制度の立ち上げです。

昨今の日本人は、ストーリー性のある観光資源に魅力を感じます。観光スポットにシニア観光ボランティアを配置して来訪者の知的関心に応えます。同時に、場内美化や道案内の役割を果たすこともできます。ちなみに小金井市内には「シニアSOHO小金井」というボランティア組織が存在（会員数41名（2009年3月末））し、現在の活動は、ゴミ問題、市民交流行事運営、パソコン教室などですが、今後観光分野での活躍が期待されています。



観光ボランティアを希望するシニア層は多い。全国各地でシニア観光ボランティア組織ができています。

（写真：高齢者社会 NGO 連携協議会 HP より）

これらシルバー世代市民という資源を有効に活用することで、少ない投資であるにも関わらず、来訪者は暖かいおもてなしを受けて「訪れてよし」を実感できます。のみならず地域住民にとっては、定年後も自己実現のためのステージが用意されることになり、とりわけシニア層にとっては、正に「住んでよし」の大切な要素にもなるのです。そして更にそれが来訪者から「住んでみたい」と思ってもらえることにつながる、という「好循環」が期待できるのです。

【提言Ⅱ-2：ピクニックランド構想で3つの都立公園の魅力度をアップする】

【提言の想い】

小金井・武蔵野・野川の3つの都立公園は、どれも広大な面積です。武蔵野の古き良き姿そのもので、花見の名所であると同時に、近隣住民の日常のジョギングや散歩のコースとなっています。

もっと色々な楽しみ方をできるスポットになれば、市民の休日の過ごし方の選択肢が充実するという意味で、便益性の向上が期待されます。

【提言の背景】

既に小金井公園には子供向けにローラー滑り台やソリゲレンデ、大人向けには昼寝用のハンモック、ペット連れにはドッグラン等の施設があって好評を得ており、休日には相当な混雑となるほどです。また野川公園にはバーベキュー施設があります。週末に狛江市多摩川の河川敷を訪れると、家の近くで家族や仲間同士でバーベキューを楽しめる場所というニーズが如何に高いかに気付かされます。



(写真：小金井公園 HPより)

これらの設備は投資金額が少なく済む割には魅力度を飛躍的に高められますから、現在設置されていない公園には、是非新たに設置するよう検討されるべきでしょう。また可能ならば、軽食やバーベキュー用具を販売する売店が併設できれば、尚利便性が向上しますし、ちょっとした雇用対策にもなります。

これによってこれらの公園は、「市民の憩いの場」という役割に加えて、「日帰りピクニックランド」としての役割をも果たせるようになります。面積が広いので、敷地の一面にこれらの設備を増やしたくらいでは、武蔵野の自然という元来の魅力が失われてしまうことありません。

自転車で出かけられる範囲に、お金をかけずに一日中でも飽きずに過ごせるレジャースポットがあるということは、市民にとって正に「住んでよし」に直結するでしょう。新宿まで20分ほどという近さにもかかわらず、ここまでのポテンシャルと広さを擁する公園が3つも存在する市は他に見当たりません。他の市民から「家の近くにあんなに楽しい場所があるなんて羨ましい。」と言われるようになれば、小金井市に住んでいることへの満足度も向上することでしょう。

とは言え、3つの公園がいずれも都営だということを考えると、これらのことを都の管轄部署に御提案されたら如何でしょうか。

【提言Ⅱ-3：黄金の水を活用したオリジナル商品を開発する】

【提言の想い】

小金井市の豊かな水資源を代表するものとして「黄金の水」があげられます。東京都の水質基準にも適合した井戸水となっており、安心・安全な水として多くの地元住民の食生活に溶け込んでいます。ただし現時点での小金井市外への知名度はそれ程高くないと思われます。日本全国で有名な「南アルプスの天然水」「六甲の水」までは難しいかもしれませんが、東京近辺では名の知れた水として定着させたいものです。そこで黄金の水を活用したオリジナル商品を開発します。市内外への販売を行うことで、「黄金の水」と「小金井市」の知名度が向上することが期待できます。

【提言の背景】

黄金の水は硬度が145となっています。硬度が100より低いものを軟水、高いものを硬水と区分けしており、黄金の水は硬水（または中硬水）に分類されます。日本国内で産出されるミネラルウォーターは軟水が多く、ヨーロッパ産（例「エビアン」硬度291）は硬水が多いのが特徴です。軟水、硬水それぞれに特徴があり、下記に適した使用方法をまとめました。

この特徴を生かして、黄金の水を使用したオリジナル商品を開発します。実行に向けてはより詳細な研究が必要となりますが、アイデアを挙げてみます。

- 栗焼酎 江戸時代には幕府にも献上した小金井の栗と仕込み水に「黄金の水」を使い、栗焼酎を開発します。栗を使った地栗発泡酒「マロンの雫」の評判が良いように、この栗焼酎も期待が持てます。
- カレー ラーメンに並ぶ国民食でもあるカレー。小金井市ではこの人気メニュー2種に対する取組みを強化します（ラーメンは提言10を参照）。味を閉じ込める効果が硬水にはあるので、黄金の水はカレーとの相性が抜群です。

この他、市民のアイデアを積極的に取り入れ、「黄金の水」を市内外へアピールします。

＜軟水・硬水の特徴を生かした使用方法＞

◇軟水

- ・コーヒー（マイルドな味 アメリカーン）
- ・日本酒（さらりとした、柔らかい味）
- ・焼酎、ウィスキーの水割り
- ・日本茶（緑茶）
- ・ご飯を炊く際に使用
- ・野菜、魚を煮る、出汁をとる

◇硬水

- ・コーヒー（苦味を出す エスプレッソ）
- ・日本酒（厚みのある、力強い味）
- ・ミルクティ、ウーロン茶
- ・西洋料理、肉を煮る
- ・鍋物
- ・スポーツ後の水分補給

【提言Ⅱ-4：ラーメン街道にパーキング・メーターを設置する】

【提言の想い】

ラーメン人気の高まりはとどまることがありません。全国各地で新たなラーメン街が出現し、ラーメン店巡りを趣味にする人が増えています。

しかし小金井市が誇るグルメストリートである「ラーメン街道」には、以前のような「車が路肩一面」といった光景は見られなくなりましたし、行列店も僅かになりました。このまま市の大切な観光資源が衰退してしまえば、大きな損失です。

ラーメン街道がシャッター通りになってしまう前に手を打たなければなりません。一度賑わいが戻れば、それは更なる有力店の出店参入につながり、一層魅力あるスポットになっていくものと期待できます。

【提言の背景】

「ラーメン街道」には、駅から歩くには遠いという大きな弱点があります。市外から電車で来街する人には訪問が困難です。ラーメンは単価が高くないため、わざわざバスに乗って食べに行くのは、コストパフォーマンス的に好ましくないからです。

電車やバスがダメならば、頼みは自家用車です。しかし周辺には駐車場がありません。なおかつ昨今駐車違反取締が厳しくなっている状況では、新小金井街道を通行するドライバーは、落ち着いてラーメンを食べるという訳にはいきません。

ところが幸いなことに、新小金井街道は片側一車線の割には十二分な幅員があります。路側帯にパーキング・メーターを設置する余裕があります。余程の行列でもない限り、パーキング・メーターの利用可能時間である60分もあれば、ラーメンを食べ終われます。

メーター設置に係る概要は以下の通りです。商店会組織や行政からの働きかけで設置要望を出すことが可能です。商店街の賑わい回復のためには、店舗側の経営努力はもちろん必要ですが、行政にできることもあります。都や商工会の支援スキームを適応するののも一つの方法ですが、パーキング・メーター設置というハード面での対策は、ある程度の即効性が期待できます。警察署等と相談することから始めてはいかがでしょうか。



(写真：goo Wikipedia より)

設置基準	駅周辺や商店街など短時間駐車的需求が多く、違法駐車が問題とされている地域において、交通安全の円滑な交通処理に支障がない範囲
設置、撤去、休止についての問合せ先	パーキング・メーター等を設置、管理している警察署の交通課交通規制係または、警視庁交通部駐車対策課

【提言Ⅱ-5：地元野菜の地産地消を進める】

【提言の想い】

食を取り巻く安全志向が国民の間で広まっています。生産者の顔が見え、安心できる食材を家庭で食べることは、これからの暮らしを考える上で重要な概念です。小金井市の地目別土地面積で畑の占める割合は12.8%（東京都統計年鑑 平成17年版）であり、多摩地域の平均を超えています。東京の市部でも畑作が活発に行われていることが伺いしれます。また市としても江戸東京野菜の普及に力を注いでいます。これら地元で取れた野菜を小金井市民が食する「地産地消」の考え方を広めることで、健康的な食生活を市民に提供することが可能となります。

【提言の背景】

小金井市内には各地に農家が庭先で販売する直売所が点在しています。NPO法人シニアSOHO小金井が管理しているHP「小金井info」によると、50軒もの農家庭先販売所が登録されています。また小金井市でも「庭先直売所マップ&レシピ集」を配布しています。これら農家の生産した野菜を一箇所で購入できれば便利ですが、小金井市内ではJAが運営する小金井経済センターが該当します。しかし当センターの営業時間は9時から16時まで、定休日は日・祝祭日となっており、住民の来店が最も多い時間・日に営業できていません。小金井市として地産地消をバックアップする意味でも、市民が来店しやすいような直売所を設置することが必要となります。

＜農産物庭先販売マップ＞



＜小金井経済センター＞



参考ですが、八王子市で「道の駅八王子滝山」が2007年4月1日に開駅しました。市内の農家が生産した新鮮な野菜の販売コーナーが評価を得たため、オープン後1年で来場者数が130万人を突破しました。道の駅を作るには多大な費用がかかるため簡単ではありませんが、まずは地元野菜を販売できる場所の利便性を高めることが重要です。そうすれば新鮮で安全な野菜を求める小金井市民のニーズに応えることが可能となります。

【提言Ⅱ-6「小金井市 ご当地検定本」を発行する】

【提言の想い】

「小金井市 ご当地検定本」の発行は、小金井市の持つ潜在的な歴史・文化を掘り起こし、知ってもらうことにより、地域内外の方に小金井市を、親しみを持って受け入れてもらうことにつながります。また、「ご当地検定本」を、小学生を対象として、地域文化を学ぶ教材として使用することで、地域がより身近なものになると考えます。さらに、遠足の時に検定本を持ち、文化を確認していくなどの活動を通して、地域への親しみをより強くはぐくむことにもなります。このほか、小学生向けの「小金井何でも辞典」等の作成なども考えられます。

【提言の背景】

小金井市には検定本にふさわしい、多くの「財産」があります。列記してみました。

- 【自然】：小金井公園、野川公園、武蔵野公園、野川、ハケ、ハケの道、
：浸透枡の普及・浸透枡→湧水確保、ヒートアイランド防止といった長所を明示
- 【歴史】：小金井神社、菅神社、稲荷神社、玉川上水、
- 【文化】：人形芝居、スタジオジブリ、ハケの森美術館、
- 【学校】：学芸大学、法政大学、農工大学、亜細亜大学、東京経済大学、
：小金井工業高校、 人気学科・自慢分野・スポーツ・社会貢献等
- 【食物】：江戸東京野菜、地域和菓子、ラーメン、おにぎり、地場野菜レストラン、
飲食店の紹介、江戸東京野菜や黄金の水で地産地消型の食生活
- 【生活】：買物、育てる、楽しむ、休む・寝る（住宅）
- 【健康】：グラウンド、プール、ジム施設等
- 【働く】：交通・税金・安らぎ（騒音等脱公害）
- 【環境】：ごみ問題、狭隘道路対策、CO2削減、市民を巻き込んだ改善活動
- 【子育て】：子供・保育園・制度・安全

上記の各項目を別の切り口で仕分けすることで、多方面から（立体的に）「小金井の街」を理解してもらうことが可能になるのではないのでしょうか。

【参考】

小田原箱根商工会議所（神奈川県）は、6月6日に実施する「第7回小田原まちあるき検定」の受験者を募集している。同検定は、まち歩きと検定試験が一体となっており、「歩く」「食す」「試す」「楽しむ」の4つのテーマで構成されている。テキストに記載されたポイントを中心にまちを回った後、市内の飲食店で食に関する解説を聞きながら昼食をとる。午後からは検定にチャレンジし、結果に応じて認定証などが贈呈される。参加費は2000円、定員は50名、他。

【提言Ⅲ-1：『子育てのしやすいまち宣言』を行う】

【宣言の想い】

小金井市は、都心から近いだけでなく、ゆったりとした自然空間を有した街です。公園の緑、小川のせせらぎ、神社の静けさ、土の上で裸足になり思いきって走り回れる環境が整っています。こうした環境の中での「住みやすさ」を前面に出した「〇〇のまち宣言」を行うことは、移り住みたいと関心を持っている方に強いメッセージとなり、その結果、小金井市の人口の増加につながるのではないのでしょうか。

例えば「子育てのしやすいまち」宣言です。小金井に住んでいる方に、また、市外の方に、小金井は安心して子育ての出来る地であることを発信します。

【提言の背景】

小金井市は新宿から電車で30分、東京からでも45分程度と都心の勤務地から大変に近い地でありながら、公園の緑、小川のせせらぎ、神社の静けさ、都心にないすごしやすい環境が整っています。このため、子供達が土の上で裸足になり思いきって走り回れる環境が整っている地域です。こうした環境の中での「住みやすさ」を前面に出した「まち宣言」を行います。

更に、「子育てのしやすいまち宣言」のほかにも、「市民参加型のまちづくり宣言」、「安心のまち宣言」、「働きやすいまち宣言」等のアピールもあります。いろいろな分野での『〇〇まちづくり宣言』を行います。これからの小金井市の目指す方向を、街の内外の方に知ってもらうことは、これからの街の発展に大変重要なことです。その「広報手段」の効果的な方法の一つが『〇〇まちづくり宣言』です。企業で言えば「経営方針」あるいは「経営目的」に当たるものでしょう。今回の提言では、そのほかにも「市民参加型のまちづくり」「働きやすいまちづくり」等と、いくつかの提言を行っています。これらをしっかりと小金井市民及び市外の方に宣言することが大切です。

例：上田市都市宣言（抜粋）

- ◆「ひともまちも健康で元気に 生活快適都市宣言」
～誰もが、住んで良かったと実感できる快適なまちを目指して～
- ◆「争いのない世界を願う 非核平和都市宣言」
～争いと核兵器のない平和な世界の実現を目指して～
- ◆「優しい思いやりあふれる 人権尊重都市宣言」
～お互いの人権を尊重し合えるまちを目指して～
- ◆「地域皆で子育て 未来子輝く都市宣言」
～地域全体で子育てを支える街を目指して～

【提言Ⅲ-2：学童保育施設や企業内保育施設の設置を促進する】

【提言の想い】

市民のニーズは高くても、こうした取り組みは民間単独での事業として維持・継続するのは難しいのが実態です。ただ、預かってほしいニーズがある一方で預かってもいいという人も多いと想定され、行政が啓発し補助することによって取り組みが大きく拡大することが期待されます。

【提言の背景】

市内でも特にNPO法人を主体とする学童保育の取り組みが実施されていますが、引き続き強化することが必要です。一方、事業者が保育施設を保有する場合に費用の一部を補助する国や東京都の制度内容を広く告知することで設置促進をはかります。

特に中小零細企業や起業間もない事業者にとって単独で設置することは困難なことから、インキュベーション施設やオフィスビル所有者への働きかけや事業者間共同での設置を促します。

(左:厚生労働省 啓発パンフレットより)

従業員の仕事と子育ての
両立支援のために！

**事業所内保育施設の
設置・運営を応援します！**
(事業所内保育施設設置・運営等助成金のご案内)

あなたの会社に保育施設はありますか？
従業員のお子さんを預かる保育施設の
設置・運営・増築や保育道具等の購入を
行う事業主・事業主団体の方々に、
費用の一部を助成します。

助成金を受給
するためには

- ◆雇用保険の適用事業の事業主または事業主団体である必要があります。
- ◆育児・介護休業法に規定する育児休業、所定外労働の制限及び所定労働時間の短縮措置について、労働協約または就業規則に定め、実施している必要があります。
- ◆次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画について、策定・届出、公表及び労働者への周知を行っている必要があります。

厚生労働省

【提言Ⅲ-3：市民参加による「歩行者優先道路」を推進する】

【提言の想い】

「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」をアピールするには、「住みやすさ」として「安心・安全・利便性」を感じてもらうことが重要です。その手段の一つは生活の拠点間を結び、人が移動するための「道」です。

小金井市の道路は、「片側2車線+歩道」の幹線道路、「片側1車線+簡易歩道」の一般生活道路、及び、幅4~6m程度の歩車道の区別のない生活道路となっています。住んでいる方が、これらの道路を、近くのバス停、駅、保育園・小学校等まで安心で、快適に移動できれば、市の内外の方に「住みやすさ」をアピールすることができます。

歩道にはプランタン等による花のある道を市民参加で演出し、歩道のない生活道路はカラー舗装、ブロック舗装等とした中で、同様に花の演出を行うことで「歩行者優先道路」のイメージを推進したらいかがでしょうか。

【提言の背景】

第3次小金井市基本構想に「自立と活力の拠点づくり」として「回遊性のあるまち」「歩行者中心のまち」等の施策が上がっています。当提案はこの具体策に通じるものと考えています。ブロック舗装やカラー舗装された「歩行者優先」と分かりやすい道路や、街路樹の植えられた歩道のある生活道路で、安心して目的地へのルートが確保できること。更に、小金井公園～武蔵野公園、野川公園、滄浪泉苑等へ遊歩道により回遊できる道路です。

提案のイメージとして下の写真を見てください。下段右側の道路は東小金井駅の北側の小金井橋に至る道路です。『小金井市 環境美化サポーター制度 「NPO 花と緑と小金井」』の表示があります。上下一車線の車道にゆったりとした歩道を有する、少しぜいたくな道路構成ですが、歩道を市民参加により安らぎのある街を形作っていると云えます。



【提言Ⅲ-4：住みやすい街を目指し「案内板」を充実させる】

【提言の想い】

「住んでよし、訪れて良しの街」の大事な要素の一つは、道路を歩いていて今どこにいるかがわかることではないでしょうか。知らない地に来て、案内板があるとホッとします。さらに、知っているようでいて知らないのが緊急時の病院や避難場所等です。これらの施設を表示した案内板があることで街への安心感、親しみが増してくるのではないのでしょうか。この地図に、歩道の整備状況まで色分けした表示があると更に利用価値が上がると思います。是非、街の交差点等に整備してほしいものです。

【提言の背景】

◆緊急避難場所、病院、消防署、役所等を主役とした案内看板の設置

小金井市民が普段の生活の中で起こる「家族の怪我・病気等の緊急の事態への対応、災害時等の緊急の避難先」等の情報は、間近で、すぐに確認できることが安心の一つにつながります。似た案内板に「住宅表示街区案内板」があります。小金井市でも見受けることができます。

しかし、「住宅表示街区案内板」は、その目的が街区表示のため、緊急対応等の施設の表示は見やすいものではありません。『住みやすい街、安心できる街』を念頭に置いた案内地図を、駅前、公園等に設置して欲しいものです。



【武蔵野市 住居表示街区案内図】

◆あると便利な表示看板



【工事中での案内看板】

住居・電柱等に表示した町名・丁・番地の表示板である「街区表示板」の充実や、道路名を交差点等に表示した「道路案内標識」、交差点を表示した「信号機取り付け地点名板」等々の公の看板は「無い」と非常に不便さを感じます。是非、増やしてほしいものです。また、名所・旧跡・公園等の案内板や、樹木表示板、花畑案内、生け垣通り等の案内も街の豊かさ・住みやすさ等の愛着を増すものと考えます。さらに、写真のような工事中のためにわかりにくくなっている公園等の行き先表示を臨時に設置した看板なども、他所から訪れた人には、ぜひ欲しい看板です。

【提言Ⅲ-5：小金井の水資源を支える雨水浸透マスの認知度を上げる】

【提言の想い】

緑豊かで水質の綺麗な川が流れる、そんな自然環境を持つ街に住みたい人々が多いはずです。マクロミル（インターネットリサーチ会社）の「住んでみたい街ランキング 2010」によると、関東圏第 1 位は吉祥寺となっています。その理由として、「大きな公園がある」「都心通勤圏で自然豊か」といったことが挙げられています。小金井市には東京都内でも有数の広さを持つ小金井公園や野川公園があり、事実武蔵野市よりも公園面積比率は高くなっています。この広大な緑に加えて、野川やはけの湧き水、黄金の水に代表されるように、水資源も豊富で良質なものとなっています。昭和 63 年に始まった雨水浸透マスの設置が一約を担っているのでしょうか。この雨水浸透マスの効果や設置支援体制を積極的にアピールし、自然を大切にしている街としての認識を高めます。その結果、自然環境を重視する人々の小金井市への転入が期待できます。

【提言の背景】

小金井市の雨水浸透施設設置率は平成 22 年 3 月末時点で 53.4%となっており、世界でもトップクラスの数値となっています。これまで行政、市民、設置会社の 3 者が協力してきたため素晴らしい結果を得ることができました。しかし現在では雨水浸透施設設置の際の個人への助成は実施していません。ただし雨水浸透施設等設置助成事業として、施工業者（排水設備指定工事店）への助成は行っています。この状況下では雨水浸透マスの存在や効果を住民が知る機会は減ってきていることが懸念されます。特に市外の人々は雨水浸透マス自体を知らない可能性が高く、より知名度を高める必要があります。

そのための取組として、「雨水浸透マス設置住宅シール」を作成し、設置済の住宅へ貼るようにします。例えば、警備保障会社のシールが玄関に張ってあることで、セキュリティが行き届いているのを対外的にアピールすることと同様に、「雨水浸透マス設置シール」の貼付で、水資源に貢献しているイメージを醸成していきます。また新たに小金井市に転居してきた住民が住民登録を市役所で行う際には、このシールを直接渡し、口頭やパンフレット等で浸透マスの効能説明を行います。こういった活動で住民ひとりひとりが小金井市の自然環境に配慮した生活をしていると感じてもらうことが可能となります。

一方、小金井市外の人々へのアピールもかかせません。雨水を利用した施設の設置は他の自治体でも広がっていますが、小金井市は「設置率が世界トップクラス」の実績があります。これを大々的に宣伝してはいかがでしょうか。梅雨の時期に武蔵小金井駅前などで、実物の浸透マスを展示したりすることで、通勤通学や買い物、商用で訪れる市外の人々への認知度を上げることができます。この様な取組を行っていくことで、自然環境に配慮した都市としての認識が高まるはずです。

【提言Ⅲ-6：リサイクルを推進し、エコロジー都市を目指す】

【提言の想い】

環境志向は我が国において企業活動や市民生活を営む上で重要なキーワードとなっています。今年度からは環境省が「チャレンジ 25 キャンペーン」を立ち上げ、温暖化防止を企業・団体・個人とともに進めています。身近なところでは、スーパーのレジ袋有料化やエコカー減税、エコポイント（エコ家電製品購入）などです。大小様々な環境保全・改善活動がありますが、上手く進めるには市民の自主的な活動やボランティア団体の活動が活発化することでしょう。これらの活動を小金井市が支援することで、環境問題に市が積極的に取り組んでいる姿勢を打ち出します。結果、「エコに取り組む街＝エコロジー小金井市」のイメージを醸成し、住みたい街として生活者の評価を得ていくことが期待できます。

【提言の背景】

小金井市ではゴミ処理施設を新たにどこに建設するかが緊急の課題となっています。ゴミ処理能力を増強することと同時に、ゴミの再資源化、再利用を図ることも重要となります。そこで小金井市のリサイクル率を環境省「一般廃棄物処理事業実態調査の結果（平成19年度版）」で調査すると、当市のリサイクル率は44.2%と非常に高い数値となっています（人口10万人以上50万人未満都市では第4位。1位鎌倉市47.6% 2位倉敷市45.4% 3位調布市45.1%）。この分野において、市民とともに日本一を目指すことを積極的に謳っていきます。現在、下記2つの施策がありますが、さらに取組みを強化していきます。

①リサイクル推進協力認定制度

現在は8店の小売店が認定店舗となっていますが、さらに多くの企業への参加を呼びかけます。武蔵小金井駅再開発で出来た大型スーパー「イトーヨーカ堂武蔵小金井店」は8月に認定店登録となり、当制度の旗艦店となるはずですが、これを契機に市内スーパー・小売店への参加を促してください。また認定店になったことに対するインセンティブも重要となり、市としても認定店への協力体制（年間表彰制度など）を確立させてください。

②生ゴミ処理機助成金

補助金が購入価格×0.8、上限50,000円と日本でも有数の高額補助となっております。告知が進めば、住民の活用は劇的に増えるのではないのでしょうか。ただし家庭用生ゴミ処理機の知名度は、それ程高くはありません。乾燥式とバイオ式の二つに分かれ、ランニングコストも大きく違ってきます。各家庭への導入を進めるためには、HPや市報で機能の違い等を啓蒙していくことが必要です。例えば、国分寺市では家庭用生ゴミ処理機「ごみけしくん」を市として斡旋しています。販売価格14,000円のうち、10,000円を助成しています。いわゆる国分寺市の「PBブランド」として知名度を確立しつつあります。小金井市でも電機メーカーと連携し、同様の取組みを行うことを提案いたします。

【提言Ⅲ-7：東小金井駅の周辺を整備する】

【提言の想い】

東小金井駅は、1964年9月に開業しました。地元の要望によって地元住民の負担によって開設された駅です。開業翌年の1965年から1984年まで貨物取り扱いが行われており、現在でもその跡地が駅の北東部に残っています。JR貨物の跡地を中心とした再開発が進んだ場合、新規流入する住民は子どもがいる団塊2世の世代が中心となるでしょう。「東小金井駅の周辺を整備」によって「買い物や日常生活が便利」で「親子ともに健康にすごせる」ようになることが期待されます。

【提言の背景】

◆食品系スーパーの誘致

現在、東小金井駅北口には約120の商店があります。駅の東側を南北に走る梶野通り沿い、西側を南北に走る東大通り沿い、そして東西に走る北大通り沿いに多く、南北400m、東西600mの範囲に広がっています。そのため、ワンストップでの買い物がしにくいのが現状です。特に食品店の数は少なく点在しており、毎日の買い物には不便です。

今後、東小金井駅北口を再開発するにあたっては、駅近くに食品系スーパーを誘致すると住民が通勤帰りに利用できて便利です。

◆保育園の開設支援

子育て世帯の増加に対応するには保育園や保育所も必要です。しかし東小金井駅北口地域には、梶野町に保育園2箇所と市立の学童保育所1箇所があるだけです。保育園や保育所を増やすためには空き店舗の活用や開園支援の施策が必要でしょう。

◆バスの増便と自転車利用の促進

東小金井駅北口から出発するバスは、3社で合計4路線があります。京王バスは朝夕1時間6便、昼間1時間2便程度の本数です。CoCoバス（小金井市運営）は1時間3便、ムーバス（武蔵野市運営）は1時間2便の本数で運行されています。今後の住民増に対してバスの増便が必要となるでしょう。各路線ともに昼間は1時間1～2本の増便が望まれます。

また道は平坦なので自転車の利用促進も有効でしょう。駅高架化と駅前の区画整理に伴って駐輪場の確保が進みつつあります。子どもを持つ人や高齢者に対しては、普及が進みつつある電動自転車の購入支援策なども効果的です。

自転車購入補助施策の例（愛知県安城市）

The screenshot shows the official website of Anai City, Japan. The page is titled "自転車購入補助" (Bicycle Purchase Subsidy) and was last updated on June 10, 2010. It lists the following conditions for the subsidy:

- 1 安城市民であり、市税の滞納がないこと。
- 2 安城市「まちの自転車屋さん」において、防犯登録・自転車安全整備を受けたBAAマーク付の新車の自転車を購入すること。
- 3 自転車安全利用講習会を受講すること。
- 4 自転車を運転する際にヘルメットを着用すること。
- 5 幼児2人同乗用自転車の場合は、申請時に満6歳未満の幼児を2人以上扶養していること。また、幼児2人同乗基準適合車マーク付であること(1世帯につき1台)。
- 6 高齢者向け自転車の場合は、申請時に満65歳以上であるか、すべての運転免許を返納していること(1人につき1台)。
- 7 電動アシスト自転車の場合は、通勤手段を自動車から自転車に転換すること(1人につき1台)。

※ 次年度からITSマーク登録の更新をしてください。
※ 詳しくは、自転車購入費補助金交付要綱をご覧ください。

【提言Ⅲ-8：起業をはじめとするワンストップ相談や支援施設を設置する】

【提言の想い】

起業を考えている市民がいつでも相談できる窓口や専門家を配置するとともに、少ない資金での起業が可能な施設を設置することは、新たな事業者の創出や市内の活性化につながることを期待できます。また、既存企業の事業革新等の取り組み支援も重要です。

【提言の背景】

優れた事業シーズやアイデアを持っていても事業化に結び付けることができない、また助成金等を有効に活用した事業拡大の機会を逸する事業者も多いのが現状です。

市内が活性化するためには、新規創業や既存企業の新たな取り組みが不可欠です。市内には大学等の教育・支援機関もあり学生も多いことから、起業シーズも多いと想像できます。

小金井市は、これまでも東京農工大学の「小金井ビジネス・ポート」に対する支援や連携、「黄金の里」設置等の取り組みを行ってきました。また、都心部では廃校等を利用した小規模起業家やSOHO向けの支援施設が設置されています。当市においても、遊休施設があれば、その有効利用の観点からも、既存施設を利用し、運営主体を含め小さなコストで運営できる手法を検討したいものです。

◆支援施設の機能（例）

- ①創業まもない事業者に対して低い賃料での事務所や研究施設の賃貸
- ②創業相談や事業化の支援
- ③既存事業者に対する経営相談や税務・法律相談窓口
- ④セミナー・研修会等の開催
等

【添付資料】

1. 「小金井市の人口を10年間で6千人増やせる環境づくり」

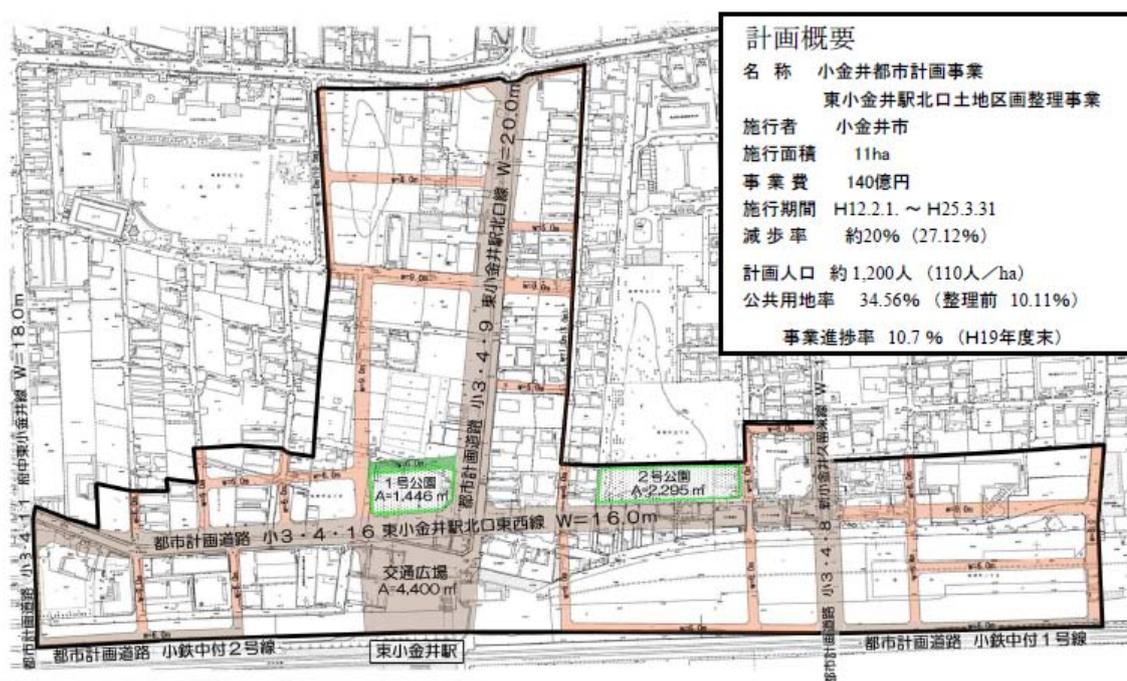
(1) 人口増加の手法

小金井市の税収増大のためには、人口増加が必須と考えられますが、人口を増加させるためには、遊休土地の活用、農地の宅地への転換、あるいは土地の高度利用が考えられます。環境の保全を考慮すると、単純に宅地を増やす方法に依存するのは危険であり、限度もあります。

そこで、土地の高度利用による方法を前提とした人口増加の可能性を、以下で具体的に検討しました。実際に数値を挙げて検討を行うために、東小金井駅北口土地区画整理事業地域を対象としました。

当該計画の概要は以下の通りです。

(<http://www.city.koganei.lg.jp/kakuka/kaihatsujigyohonbu/kukakuseirika/shiryoushiyou/files/kukaku3.pdf>)



(2) 増加人口の試算

一方で、土地区画事業施行後の土地利用の内訳は、下表の通りです。

(<http://www.city.koganei.lg.jp/kakuka/kaihatsujigyohonbu/kukakuseirika/zigyoushiyou/files/jigyougaiyo.pdf>)

宅地は約 72000 ㎡となっていますので、これを基準に最終的にどれくらいの人数が居住できるかを試算しました。

	施行前		施行後	
	面積 (㎡)	割合 (%)	面積 (㎡)	割合 (%)
公共用地	11,147.27	10.11 %	38,024.61	34.48 %
宅地	91,992.76	83.43 %	72,237.21	65.52 %
測量増	7,121.79	6.46 %	—	—
計	110,261.82	100 %	110,261.82	100 %

計算条件

- 宅地の容積率（土地の高度利用の割合）は平均 250%……「小金井市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例」の中で、細かく分けられた地区（低層住宅地区、一般住宅地区、駅前商業地区など）によって 100~400%とそれぞれに指定されています。単純に最大値と最小値の平均をとりましたが、マイナス側に振れる要因としては、容積率は法規的に規定値よりも下回る必要があることが挙げられ、プラス側に振れる要因としては、特定街区や総合設計などの都市計画制度の活用によって部分的には 600~700%までの上乘せも可能であることが挙げられます。
- 利用可能面積のうちの 80%が住宅になる……事業用地の範囲が広く、駅前はまだ栄えていない現状から、商業集積としての魅力は大きくないと考え、住宅を中心としてその周辺住宅に対する商業需要を想定しました。住宅需要としては、中央線沿線で駅前至近という条件は十分に魅力的と考えられます。
- 住宅 1 戸当たりの必要面積は 80 m²で 3.5 人が住む……80 m²は駅前のマンションとしては比較的大きめですが、マンション等の共同住宅の形で土地を高度利用すると、機械室や電気室などの共用部分が必要になりますので、その分を割り引くと実際に住宅 1 戸当りで使える面積はこれよりも多少減りますので、相殺されると想定しました。

以上から、当事業用地内における居住人口は下記となります。

$$72,000[\text{m}^2] \times 2.5 \times 0.8 \div 80[\text{m}^2/\text{戸}] \times 3.5[\text{人}/\text{戸}] = 1,800 \text{ 戸} \times 3.5[\text{人}/\text{戸}] = 6,300 \text{ 人}$$

なお、増加という観点からは、現況において居住している人口を差し引かなければなりません。土地区画整理事業に参加する地権者数が 141 人（要チェック）となっていますので、これを単純に 141 家庭（=141 住戸）とすると、 $141[\text{戸}] \times 3.5[\text{人}/\text{戸}] \approx 500$ 人となります。これらを勘案すると、東小金井駅北口駅前土地区画整理事業による人口増加の可能性は、6,000 人前後と試算されます。

（3）建物構成の検証

前記の試算では、住戸数で言うと 1,800 戸の住宅が東小金井駅前に供給されたという想定になりますが、実際にどの程度のボリュームになるか検証してみます。

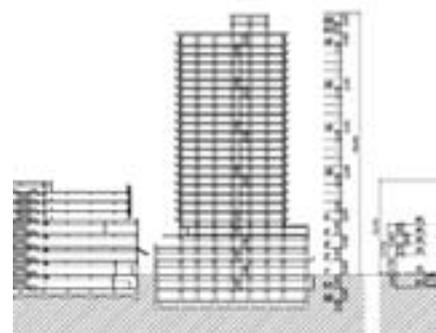
東小金井駅と武蔵小金井駅の間線路沿いにある大規模マンションのエアーズシティを例にとると、敷地面積約 1.9ha、住戸数約 470 戸、この場合の容積率は、概算で $(470[\text{戸}] \times 80[\text{m}^2/\text{戸}]) \div 19,000[\text{m}^2] \approx 200\%$ 、前記の試算条件 250%よりも低くなっています。この形態のままでは 1,800 戸に不足しますが、十分に開発が進み、街としての魅力が形成されれば、住宅供給が区画整理事業地内に限定する必要はありません。

エアーズシティの場合、最高 14F の中庭を囲む形で外周道路に沿って建つ住棟構成（次ページ参照）となっています。いわゆる高層マンションの典型的なこの形態の場合、1,800 戸だとこの 3~4 倍のボリュームになります。



(google マップ、不動産 HP 参照)

高度利用のもうひとつの形態、駅前の超高層タワーマンションの場合を検証してみます。武蔵小金井駅南口再開発エリアのプラウドタワー武蔵小金井を例にとると、敷地 3666 m²に対して 187 戸、この時点で (187[戸]×80[m²/戸]) ÷ 3,666[m²] ≒ 400%ですが、3 階までの低層部には商業施設が入っていますので、実質の容積率はさらに大きくなっているはずで



(UR 都市機構 HP 参照)

このような建物構成を考えると、低層部も住宅が入っている場合には 200 戸程度になると考えられますので、このクラスの超高層マンションが 9 棟で 1,800 戸になります。

いずれにしろ、この広い事業地内を単一の建物構成で埋め尽くすことは、周辺地域との調和や景観上の観点からも好ましくないと考えられますので、中心に超高層を配置して、高層、中層、低層と段階的な建物構成を設定することが望まれます。

(4) 小金井市におけるマンション供給について

以上のようなキャパシティを備えた土地の供給状況に対し、土地の需要すなわちマンションの供給状況についても検証してみます。少し古い情報になりますが、財団法人ニューメディア開発協会の報告書「小金井市をモデルとした中心市街地活性化に向けた考察」

(<http://www.nmda.or.jp/keirin/h18houkoku/koganei2.pdf>) の中で、小金井市の中心市街地におけるマンション供給状況

が、右表のように示されています。これを見ると、武蔵小金井駅周辺に供給が集中しており、東小金井駅周辺はごくわずかとなっています。

表 4.1-27 民間の分譲マンションの供給状況

(単位：戸数 (中心市街地/市全体：%))

	中心市街地			市全体
	武蔵小金井駅周辺	東小金井駅周辺	新小金井駅周辺	
01年	183 (51.2)	149	0	34
02年	199 (70.0)	154	0	45
03年	34 (28.8)	34	0	0
04年	33 (100.0)	33	0	0
05年	171 (76.7)	158	13	0
合計	620 (61.2)	528	13	79

[資料] 構マルコ

ただし、この調査は中央線が高架化する以前のものであり、その当時は東小金井駅自体も古い駅舎のイメージを残していたと考えられます。事業性が優先する民間分譲マンションにおいては、特に駅前物件の場合には、その駅のイメージも大きなウェイトを占めると考えられますので、高架化により近代的な駅舎を備えた現在では、その分は割り引いて考えてよいと思われれます。

一方、マンションは民間の分譲だけではなく、短期的な視点で計画される公営や賃貸マンションを含めた全体ではどれくらい供給があるのかを推計してみました。なお、この推計は、東小金井駅周辺に限定することが難しいため、東小金井駅以外の駅前を含む中心市街地および中心市街地以外も含んだ小金井市全体を対象としています。

推計に際しては、東京都統計年鑑等を参照し、2つの右表のデータを作成し、以下の条件を設定しました。

(<http://www.toukei.metro.tokyo.jp/tnenkan/tn-index.htm>)

- ① 共同住宅 3F～を、マンションと定義
- ② 新設着工住宅数において、住宅の建て方におけるマンションの割合と同じ比率で新築マンションが着工していると仮定
- ③ 着工から竣工までのタイムラグは計算上考慮しない

小金井市の新設着工住宅数

年	戸数
2004	1,300
2005	1,354
2006	1,367
2007	868
2008	817

東京都統計年鑑より作成

これらから、直近での年間マンション供給戸数は、約 800[戸/年]×40.2%≒322[戸/年]、人口では 1,127[人/年]と推定されます。このままの状態が続くと、6,000 人分の住戸（全部ファミリーを想定）が供給されるまでに、 $6,000(20,000)[人] \div 1,127[人/年] = 6$ 年かかります。

仮に、再開発や土地区画整理などにより周辺が活性化されるとして、その効果により年率 10%のマンションの供給増が続くと想定した場合には、右表から 5 年になります。

なお、この場合は、マンションの建設により壊された住宅や立ち退いた住民は考慮されていません。東小金井駅北口駅前の検討では、マンションの建て替えに伴う立ち退き者 500 人に対して、容積率 250%で 6,300 人の増加が可能でしたが、駅前でなければそれほど高密度にはできないと考えられますので、市全体での平均容積率を 150%とすると単純に 3,800 人（ $=6,300 \times 150/250$ ）の増加が可能となります。したがって、差し引き 6 千(2 万)人の人口増を考えると、 $6,000 \times (3,800 + 500) / 3,800 = 6,789$ 人（789 人は現居住者で減少分）になり、前出の表から 5 年程度かかることとなります。建設しながらの人口増加を図ることを考えると、厳しいながらも可能な数字と考えられます。

小金井市の住宅の建て方（2008年）

	一戸建	長屋	共同住宅	
			1～2F	3F～
住戸数	16,580	730	14,250	21,180
割合	31.4%	1.4%	27.0%	40.2%

総務省 平成20年住宅・土地統計調査より作成

供給戸数が年率10%増加する場合の増加人口

年目	各年供給戸数	累積住戸数	累積増加人口
1	322	322	1127
2	354	676	2366
3	389	1065	3728
4	428	1493	5226
5	471	1964	6874
6	518	2482	8687
7	570	3052	10682
8	627	3679	12877
9	690	4369	15292
10	759	5128	17948
11	835	5963	20871
12	919	6882	24087
13	1011	7893	27626

（５）エリアに応じた人口増加のシナリオ設定

以上のような状況は、新設着工住宅数が 2006 年レベルまで回復すればかなり変わってくると思われませんが、その兆しが見えない現状では 10 年単位の息の長い活性化施策が必要と考えられます。それも、市全域で一様に施策を講じ活性化の効果を出していくことは、現実的には困難です。

そこで、エリアによって適切な方針を設定して、施策を検討し、その目標と効果をそれぞれに検証して PDCA サイクルを回していくことが重要と思われれます。たとえば、小金井市の現状を考慮すると、以下のようなエリアごとのシナリオと施策が考えられます。

- ①□ 民間分譲マンションは武蔵小金井駅周辺の中心市街地がほとんどなので、このエリアに関しては民間活力の活用を促進するために、市は環境整備に徹する。（都市計画の明確化や規制緩和などの法整備などによってプロジェクトの誘致を図る、あるいは PFI 事業の企画など）
- ②□ 武蔵小金井駅以外の中心市街地は、官主導で魅力のあるまちづくりを先行し、民間分譲マンションの事業性が高まるようなエリアの付加価値向上を目指す。（東小金井駅北口における公共施設整備や公園整備計画の具現化、官による住宅整備）
- ③□ 中心市街地以外は、企業や個人の資産整理の際に出る大型用地の活用をまちづく

りに積極的に活かし、高度利用による手法に限らず土地利用の活性化をはかる。(道路整備や公園整備で事業者にも市民にもメリットの出るような指導や対応)

- ④□ 駅付近の場合など、ロケーションによっては農地転用も積極的に推進する。農地保護政策や転用規制の緩和などによる土地流動性の向上施策を講じる。

本章での検討においては、現状で最も効率よく人口増加が期待できると考えられる②について、アップサイドシナリオ的に5年前後で6000人程度の増加可能性があることを示しましたが、本文で論じた小金井市全体での魅力づくりを通して、市全体で6000人の増加は十分可能な数字であると考えられます。

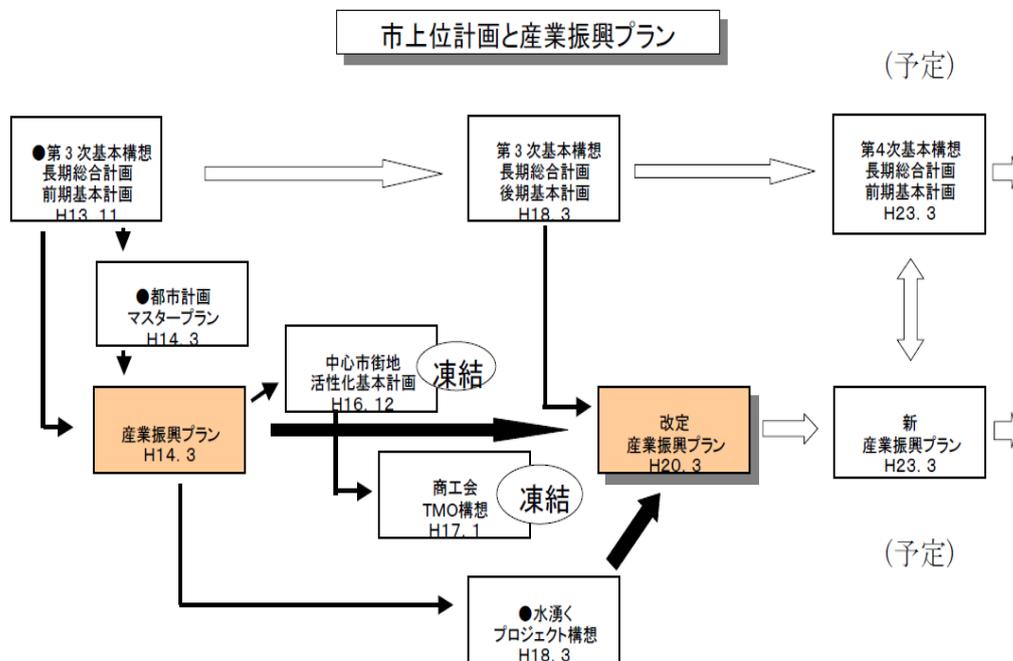
以上

2. 小金井市の第3次基本構想と産業活性化プラン

(1) 小金井市の産業振興プラン

1) 中心市街地活性化基本計画

小金井市は五カ年計画を策定し、小金井市の産業振興を推進している。(図 市上位計画と産業振興プランを参照) 近年に策定された計画では、中心市街地活性化基本計画がある。当計画は、JR 中央本線連続立体交差事業によって駅周辺の街の姿と商業環境が大きく変わるため、国の「中心市街地活性化法」に基づき、中心市街地の整備改善及び商業の活性化を図るための事業計画として事業実施の区域、時期、方法等を検討した基本計画である。当計画は、中心市街地活性化のために、①中央本線高架化に伴う街の南北の一体的活性化、②街のシンボルとなる駅周辺の市街地整備、③中心市街地周辺の魅力的な資源や拠点をつなぐ道筋づくり、④小金井の水と緑の地域性を生かした商業の活性化、⑤来街者が快適に過ごせる環境づくり、⑦小金井独自の文化・産業の創出等について取り組んだ。当計画は、平成 16 年 12 月に国から受理され、承認を得たが、平成 18 年 6 月の法改正(補足 改正中心市街地活性化法に至る経緯を参照)と同時に無効となり、旧法に対応した当計画の実施は凍結となった。新法において計画の見直し、再申請も検討したが、改正後の中心市街地活性化法と小金井市の産業振興プランが必ずしも一致しない事等の理由で、当計画は上位計画である産業振興プランと統合されることになった。



出典：「小金井市産業振興プラン改定版」(小金井市)

- (※1) 小金井市基本構想・基本計画：市政運営の長期的、総合的な指針になるもの
- (※2) 産業振興プラン：上位計画で示された産業振興の基本的な考え方を踏まえて施策を推進・実現するために策定

(2) 改定産業振興プラン

1) 産業振興プラン改定までの背景

小金井市では、市政運営の長期的、総合的な指針になるものとして平成13年11月に「第3次小金井市基本構想・前期基本計画」を策定した。この構想の中で、まちづくりに向けた基本目標の4つの柱のひとつとして「いきいきとした暮らしを支えるまち(地域と経済)」の実現を掲げ、産業振興策として①商店街の活性化、②既存事業の高度化、③創造的産業の育成を挙げた。平成14年3月に、この上位計画で示された産業振興の基本的な考え方を踏まえ、小金井らしい商業・商店街の活性化と将来性のある産業の創造に向けて小金井市産業振興プランは策定された。平成18年度までの概ね5年間とし、JR中央線連続立体交差事業の進捗に合わせて駅周辺を中心にした新しいまちづくりにふさわしい地域経済の活性化を図ることとした。当初の計画期間が終了し、また駅周辺の基盤整備が進む中、商業環境の変化に対応していくために産業振興プランの見直しを行った。

2) 旧産業振興プランの問題

各事業の検討の結果、順調に進んでいる事業がある一方で、実現化方策や実施主体等の検討が不十分であったため、取組が遅れている事業もあることが判明した。取組が遅れている事業に共通する課題として以下が挙げられる。

- ①実現化方策の不十分性
- ②事業内容のあいまい性
- ③実施主体のあいまい性
- ④事業効果の検討不足

さらに、事業成果が上がらない組織的課題として主に以下の内容が判明した。

- ①施策の事業主体(商店主や商店街など)の自助努力を引き出したり、事業実施を担うキーパーソンの掘り起こしと育成や地域リーダーとの連携等が不十分であったこと。
- ②「小金井を元気にしたい」という思いがある消費者や市民を対象にした、事業展開を支える商店街サポーターづくりとその組織化ができなかったこと。
- ③施策事業ごとの具体的な事業効果に関する検討などが不十分であったこと。
- ④施策事業の成果管理をチェックし改善案を提示する評価機関の設置検討が、不十分であったこと。

3) 改定産業振興プランの方向性

これらの課題に対応する形で、以下のように改定プランの基本的考え方を定めた。改定プランの方向性を貫く内容としては、小金井市が有する地域資源を積極的に活用し小金井らしさを醸成していくなかで、実施に向けた実効性を各事業にもたせていくということである。

- ①旧プランについては基本理念、推進目標、活性化プロジェクトの考え方を継承する。
- ②各事業メニューも統廃合や削除、新規追加せず、すべて存続させる。

③存続事業のうちから今後3年間で確実に実行、実現させる重点施策を抽出する。

④重点施策及びその他の事業を進めるための産業振興プラン推進組織をつくる。

4) 重点施策の抽出

旧プランは、①商業・商店街の活性化、②既存工業の高度化、③創造的産業の育成を目的として、プランの実現を図るために、実効性と実行性を重視した。旧プランの各事業の中から既に具体的に実行されて成果をあげている事業を抽出してみたところ、これらの事業はなお継続して実施すべき事業であり、プラン全体のなかで柱となる事業であることから、重点施策として整理した。

産業振興プランの実現のためには、まず着実に実効性を持ってプランを進めていく必要があることから、改定プランは重点施策を中心に構成した。重点施策を柱として事業展開を進めることにより、平成22年までの期間での改定プラン全体の着実な成果の実現を目指す。商業振興の重点施策として主に以下の施策が挙げられる。

■重点施策

施策	分類
インターネットによるコミュニケーション	地域サービス
商店街サポーター制度の創出	地域サービス
さくらカードのサービスの拡大	地域サービス
黄金井名物市の継続	イベント
定期的な商店街イベントの実施	イベント
オリジナル商品・サービスの創出	ブランド
産業振興プラン推進組織づくり	その他

□重点施策に準ずる施策

施策	分類
宅配・無店舗販売・巡回販売等	地域サービス
黄金井あきないカレッジの開校	ひとづくり
黄金井起業塾の創設	ひとづくり
大学・学生との連携	その他
融資制度の拡充	その他

5) 現在の状況

産業振興プランは現在商工会と市役所が協力した推進組織を造り事業を推進している。また、平成23年から新産業振興プランという五カ年計画に切り替わる予定で、新産業振興プランの策定中である。

出典：「小金井市産業振興プラン改定版」（小金井市）

(補足) 改正中心市街地活性化法に至る経緯

I. 中心市街地を取り巻く状況

1. まちの郊外化

- ・高度経済成長期に道路整備が進められ、自家用車も急速に普及した。
- ・小売店・飲食店を始めとする多種多様な集客施設が郊外への立地を進めた。

2. 小売業の現状

- ・販売額は減少し続けており、店舗規模の大小にかかわらず全体として厳しい状況。
- ・物（衣類・食品・家具等）よりもサービス（保健医療・交通・通信等）にシフト。
- ・総合スーパー、百貨店が低迷する中、コンビニエンスストア、ドラッグストア等、
- ・多様かつ変化の激しい消費者ニーズに早く対応した事業者が成長している。

3. 中心市街地・商業地区の状況

- ・価格、品揃え、品質、近さ、ワンストップ等の消費者ニーズにできていない。
- ・営業時間、関連施設（駐車場、トイレ等）整備面での利便性が低い。
- ・成功した事業のノウハウを水平展開する仕組みがない。

II. 現行施策の評価

1. 都市機能集約の視点の欠如

商業・サービス業の振興、街路や駐車場等インフラの整備に加えて、中心市街地における「公共施設の配置、公共交通機関の整備、住居の整備など広範な対策が必要」であることが指摘されている。しかしながら、現行中心市街地活性化法の目的は、「市街地の整備改善及び商業等の活性化を一体的に推進する」とされており、住宅、オフィス、学校、市役所、高齢者福祉施設、保育施設、病院といった公共施設など様々な都市機能について市街地に集約し、まち全体の郊外化を防止する等、広範な対策の必要性を市町村等に十分認識させるものとはなっていない。

2. 基本計画等の問題

中心市街地活性化法では、市町村が市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する基本的な計画を作成することができることとなっているが、実際に作成された計画を見ると、

- ①自治体によっては全市的な計画とはなっていない
- ②地域住民や商業関係者のニーズを十分踏まえた計画とはなっていない
- ③対象地域の選定に関しむやみに広い設定となっている
- ④数値目標の設定が無い
- ⑤作られた基本計画は国、都道府県に送付されるのみで、詳細な評価等はない
- ⑥経済・社会情勢の変化に対応して適切な見直しを行うこともなされていない
- ⑦支援策の効果や実績を報告させる仕組みが存在しない

等の問題が見られる。

3. タウン・マネジメント活動の問題

タウン・マネジメント活動の問題点として、

- ①商業の活性化に偏っている点
- ②実施責任や費用負担等が不明確である点
- ③自治体や商業者の積極的な参加が得られていない点
- ④実効性のあるタウン・マネジメント活動を検討していない点

Ⅲ. 今後の中心市街地活性化策の方向

1. 人口減少社会におけるまちづくり

(1) 人口減少・高齢化社会の到来

高齢化時代に通用する持続可能なまちづくりを実現するための制度設計を目指す。

(2) 持続的な自治体財政

インフラの維持管理コストや行政サービスコスト（防災、防犯等）を抑えるよう促す。

公共投資の投資コストと税収や雇用などへの経済的・社会的な影響などを試算した上で判断するよう促す。

(3) コミュニティの維持

住民と来街者が交差するコミュニティの生み出す「価値」は、まち全体の価値に大きく影響する。 今後は、商業に限らず、歴史・文化・防犯・防災・介護・保育・教育・環境等の分野も含めた価値の創造を支援していくことが重要であり、関連する主体が一体となって取り組んでいくことが必要。

2. 基本的な方向性～コンパクトでにぎわいあふれるまちづくり～

(1) 様々な都市機能の市街地集約

①中心市街地への様々な都市機能の集約化

中心市街地の居住者や事業所を増加させ、商業機能に限らず、高齢者福祉、医療、保育、教育等の都市機能を中心市街地に集約させ、まちの郊外化を食い止める。

②市街地集約を実現するための制度論

- ・郊外に行くほど規制が厳しくなる体系への移行。
- ・大型店に限定することなく都市機能全般を視野に入れた規制体系全体の見直し。

(2) 中心市街地におけるにぎわい回復

各市町村は、にぎわい回復に向けた明確な目標を持ち身の丈に応じた適切な事業を選択した計画を立てて、まちづくりに取り組む。

国は、「選択と集中」による重点的な支援を行う。成功事例を全国に拡大するため、成功事業のノウハウを水平展開するための支援

商業者・地権者等が自らの責務として主体的に取り組む仕組みを構築する。専任マネージャーのもと、中期的なプランの策定(P)・実施(D)・検証(C)・改善(A)へ取り組む。関係行政機関、TMO、各種事業実施主体、地域住民等との連携・協議体制を構築する。

まちのにぎわい回復に資する様々な取組に関するインセンティブを付与

(3) 様々な都市機能の市街地集約と中心市街地における にぎわい回復の一体的推進のための制度の在り方

居住機能などを新たに法の支援対象とするとともに、商業機能の郊外移転等を背景とする中心市街地の商業機能の低下を防止する。

国による認定を受けた基本計画に基づいて行われる中心市街地活性化に効果的な事業に対して「選択と集中」による重点的な支援を講じる仕組みを法制度として構築する。地権者・事業者等の関係者が広く協議していくため、現行法に基づく、タウン・マネジメント活動形態を再構築する。

関係省庁が多岐にわたることから、省庁間の連携を円滑化するため、中心市街地活性化本部を設置する。

(4) 参考

○自治体は、公的機関が所有する未利用地の有効活用や、大型店誘致により発生する雇用・税収についての関心が高い。

○工場所有者や農地所有者は、郊外に有している土地の有効活用を希望。

○小売店・飲食店を始めとする集客施設の経営者は、顧客・住民からのアクセスが良く、地価・賃料もできる限り低く抑えられる場所への立地を望む。

* 中心市街地とは（経済産業省の定義）

1. その地域の歴史的経緯、また地域の地理的状況を背景に、文化や伝統を育むもの。
2. 居住、公益（教育・医療・行政等）、産業等の各種機能を担う社会資本が蓄積された地域。
3. 人々が集い、語り、共に助け共に楽しむ、すなわち住民が人間らしい温かい生活を実現する「コミュニティ」として、極めて重要な存在。

* 自治体が要求される事

1. 地域住民や商業関係者のニーズを十分踏まえること。
2. にぎわい回復に向けた明確な目標を持ち身の丈に応じた計画とすること。
3. 商業の活性化に偏らず、居住、高齢者福祉、医療、保育、教育等の都市機能も含めること。
4. 住民と来街者が交差するコミュニティを生み出すため、関連する主体が一体となり取り組むこと。
5. 商業者・地権者等が自らの責務として主体的に取り組む仕組みを構築すること。
6. 中期的なプランの策定(P)・実施(D)・検証(C)・改善(A)へ取り組むこと。
7. 実施責任や費用負担等を明確化すること。

出典：「コンパクトでにぎわいあふれるまちづくりを目指して」

H16.9～H17.12 14の審議を経た中間報告（経済産業省）

おわりに

今回、小金井市への街づくりへの提言を行うに当たり、これまでと少し違ったアプローチを試みました。街づくりの目標として「10年後に人口を6,000人増を目指す」ことを設定し、そのキーワードを「ワークライフバランス」「都市観光」と言う、キーワードを仲間との検討（SWOT分析）の中からおぼろげに探し出し、提言の柱としたことです。

これにより、街づくりの提言の内容が、

「体験農園を整備する」

「東小金井駅の周辺を整備する」

といった街づくりに向けた「ハード的」な提言だけでなく、

「起業をはじめとするワンストップ相談や支援施設を設置する」

『『小金井市 ご当地検定本』を発行する』

「地元大学生のアイデアを小金井名物市に生かす」

といった制度的、ソフト的な面への提言が組み込まれたことだと思います。

また、その根底には、街づくりへの取り組みにおいて、「人」と「街」との一体化、或いは、生活を豊かにすることの出来る「街」とは何か、と言った考え方が生まれてきたことだと感じます。そして、こうした街を実現できる一つの姿として「住んでよし、訪れてよし、の街づくり」が浮かび上がってきたのだと感じています。

今回は2年を超える期間を費やしたことになりましたが、それなりに街づくりへの斬新さも加わっているのではと自負しております。更に、ここに挙げられていない検討項目も多々あったことも付言させていただきます。

ご一読いただき、ご意見、ご感想を頂けたら幸いです。

平成23年3月吉日

地域研究会
代表 飯島 康

地域研究会 会員名簿

2011.03.31

No.	氏名	郵便番号	住所	電話	メール	専門分野
1	飯島 康	180-0011	武蔵野市八幡町1-4-34	0422-54-4275	ijimaya@parkcity.ne.jp	経営計画・施工管理、建設業関係
2	小田 明彦	201-0004	狛江市岩戸北3-8-1-502	03-3488-4086	oda@yuubi-s.co.jp	小規模小売店のIT化、医薬品業界
3	梶井 聡	180-0013	武蔵野市西久保3-12-18	0422-55-3255	satoshi_kajii@hotmail.com	建築設備・設計・監理
4	北口 良夫	208-0021	武蔵村山市三ツ藤1-60-14	042-560-2260	kitaguchi.keiejimusyo@nifty.com	工場改善(品質・他)、品質・環境ISO
5	久保 陵	183-0016	府中市八幡町1-7-31-1-G	090-6010-6817	chupo@sky.plala.or.jp	出版物・レンタルビデオ業界、小売支援
6	硯 靖洋	182-0033	調布市富士見町2-16-23-E103	090-8681-3332	suzuri.yasuhiro@pfu.fujitsu.com	能力開発(社員教育)
7	関 明	181-0013	三鷹市下連雀6-2-16-213	0422-46-1015	a-seki@nifty.com	経営戦略・経営計画
8	田中 敏夫	183-0035	府中市四谷1-12-104	042-333-8981	ts-tanaka@kfd.biglobe.ne.jp	食品全般他
9	谷垣 俊介	185-0022	国分寺市東元町2-11-28	090-4925-7204	imadoright@yahoo.co.jp	IT関係全般他
10	庭野 勉	187-0002	小平市花小金井3-1-21-14	042-457-5713	t-niwano@jcom.home.ne.jp	農畜産物・加工品の卸・小売支援
11	細谷 和丈	187-0022	小平市上水本町6-5-8-204	0423-22-5387	whosoya@topaz.ocn.ne.jp	環境経営・経営計画
12	福本 勲	167-0022	杉並区下井草2-3-2	03-3395-2552	isaofukumoto@yahoo.co.jp	製造業のIT戦略・経営計画
13	宮原 信二	135-0024	江東区清澄2-13-7	03-3641-4375	miyahara@ab.auone-net.jp	人事、労務戦略
14	若槻 直	252-0232	相模原市中央区矢部1-23-18	042-755-8296	n.wakatsuki@albs.biz	納期半減の生産清流化